

(様式第10)

令和6年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人昭和大学
理事長 小口勝司

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
氏名	学校法人昭和大学 理事長 小口勝司

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

昭和大学病院

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
電話(03)3784-8000 (代表)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			<input type="radio"/>	11リウマチ科
診療実績							

1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
(注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="checkbox"/>	1呼吸器外科	<input type="checkbox"/>	2消化器外科	<input type="checkbox"/>	3乳腺外科	<input type="checkbox"/>	4心臓外科
<input type="checkbox"/>	5血管外科	<input type="checkbox"/>	6心臓血管外科	<input type="checkbox"/>	7内分泌外科	<input type="checkbox"/>	8小児外科
診療実績							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」
 (注) 「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること
 (「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="checkbox"/>	1精神科	<input type="checkbox"/>	2小児科	<input type="checkbox"/>	3整形外科	<input type="checkbox"/>	4脳神経外科
<input type="checkbox"/>	5皮膚科	<input type="checkbox"/>	6泌尿器科		7産婦人科	<input type="checkbox"/>	8産科
<input type="checkbox"/>	9婦人科	<input type="checkbox"/>	10眼科	<input type="checkbox"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/>	12放射線科
<input type="checkbox"/>	13放射線診断科	<input type="checkbox"/>	14放射線治療科	<input type="checkbox"/>	15麻酔科	<input type="checkbox"/>	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
<input type="checkbox"/>	1小児歯科	<input type="checkbox"/>	2矯正歯科	<input type="checkbox"/>	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	性病科	3	臨床検査科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
0	0	0	0	815	815	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	587	690	725	看護補助者	9	診療エックス線技師	
歯科医師	6		6	理学療法士	19	臨床検査技師	57
薬剤師	81	5	84	作業療法士	12	衛生検査技師	
保健師				視能訓練士		その他	
助産師	64		64	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看護師	981	14	983.4	臨床工学士	38	医療社会事業従事者	8
准看護師				栄養士	1	その他の技術員	12
歯科衛生士	3		3	歯科技工士		事務職員	133
管理栄養士	7		7	診療放射線技師	59	その他の職員	3

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 (注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	48	眼科専門医	1
外科専門医	56	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	1	放射線科専門医	15
小児科専門医	35	脳神経外科専門医	17
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	14
産婦人科専門医	26	救急科専門医	11
		合計	265

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 (注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病 院 長 相 良 博 典) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成27年4月1日～ 医療安全管理対策委員会 委員
 令和2年4月1日～ 医療安全管理対策委員会 委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	666.7 人	0 人	666.7 人
1日当たり平均外来患者数	1,418.7 人	60.4 人	1,479.1 人
1日当たり平均調剤数		5,868.5	剤
必要医師数		157.3	人
必要歯科医師数		3	人
必要薬剤師数		73.4	人
必要(准)看護師数		382.7	人

- 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 (注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	925.6 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	51 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	71.89	m ²	病床数	6 床
	[移動式の場合]	台数	4	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	22.7		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	51.8 m ²		(主な設備) 生化学自動分析装置(BM6010)			
細菌検査室	14.8 m ²		(主な設備) 血液培養自動分析装置(BACTEC-FX)			
病理検査室	91.4 m ²		(主な設備) 凍結マイクローム装置(ライカCM1950)			
病理解剖室	97.8 m ²		(主な設備) 解剖台・冷蔵庫・光触媒環境浄化装置(SSC-75hi-Y)			
研究室	##### m ²		(主な設備)			
講義室	5,339.8 m ²		室数	16 室	収容定員	2,593 人
図書室	1,525 m ²		室数	1 室	蔵書数	350,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	97.6	%	逆紹介率	99.1	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,453		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		26,506		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,065		人
	D: 初診の患者の数		26,285		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
近藤 昌昭	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	無	1
坂下 暁子	昭和大学横浜市北部病院 病院院長		医療に関する学識経験者	無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	無	2

「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

- (注)
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
昭和大学病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	サルコイドーシス	25
2	筋萎縮性側索硬化症	6	57	特発性間質性肺炎	6
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肺動脈性肺高血圧症	11
4	進行性核上性麻痺	2	59	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
5	パーキンソン病	54	60	リンパ管筋腫症	1
6	大脳皮質基底核変性症	1	61	網膜色素変性症	1
7	重症筋無力症	16	62	原発性硬化性胆管炎	1
8	多発性硬化症／視神経脊髄炎	18	63	自己免疫性肝炎	32
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	8	64	クローン病	38
10	クドウ・深瀬症候群	1	65	潰瘍性大腸炎	119
11	多系統萎縮症	3	66	好酸球性消化管疾患	1
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4	67	チャージ症候群	2
13	もやもや病	17	68	筋ジストロフィー	2
14	全身性アミロイドーシス	2	69	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
15	神経線維腫症	4	70	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
16	天疱瘡	33	71	神経細胞移動異常症	2
17	表皮水疱症	1	72	ウエスト症候群	2
18	膿疱性乾癬(汎発型)	6	73	スタージ・ウェーバー症候群	1
19	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	74	結節性硬化症	1
20	中毒性表皮壊死症	1	75	家族性良性慢性天疱瘡	1
21	高安動脈炎	15	76	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	21
22	巨細胞性動脈炎	18	77	歌舞伎症候群	2
23	結節性多発動脈炎	25	78	多脾症候群	1
24	顕微鏡的多発血管炎	53	79	22q11.2欠失症候群	3
25	多発血管炎性肉芽腫症	51	80	修正大血管転位症	4
26	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	81	完全大血管転位症	4
27	悪性関節リウマチ	12	82	単心室症	8
28	バージャー病	1	83	左心低形成症候群	8
29	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	84	三尖弁閉鎖症	3
30	全身性エリテマトーデス	277	85	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4
31	皮膚筋炎／多発性筋炎	102	86	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	12
32	全身性強皮症	38	87	ファロー四徴症	19
33	混合性結合組織病	29	88	両大血管右室起始症	12
34	シェーグレン症候群	95	89	エプスタイン病	2
35	成人スチル病	26	90	急速進行性糸球体腎炎	11
36	再発性多発軟骨炎	2	91	一次性ネフローゼ症候群	60
37	ベーチェット病	36	92	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
38	特発性拡張型心筋症	13	93	紫斑病性腎炎	1
39	肥大型心筋症	12	94	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3
40	再生不良性貧血	22	95	オスラー病	1
41	自己免疫性溶血性貧血	9	96	閉塞性細気管支炎	1
42	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	97	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
43	特発性血小板減少性紫斑病	61	98	グルコーストランスポーター1欠損症	1
44	血栓性血小板減少性紫斑病	7	99	尿素サイクル異常症	1
45	原発性免疫不全症候群	9	100	家族性地中海熱	1
46	多発性嚢胞腎	14	101	強直性脊椎炎	8
47	黄色靱帯骨化症	4	102	骨形成不全症	1
48	後縦靱帯骨化症	16	103	軟骨無形成症	2
49	特発性大腿骨頭壊死症	19	104	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
50	下垂体性ADH分泌異常症	4	105	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	2
51	クッシング病	2	106	総排泄腔遺残	1
52	下垂体前葉機能低下症	14	107	胆道閉鎖症	1
53	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	108	嚢胞性線維症	2
54	先天性副腎皮質酵素欠損症	1	109	IgG4関連疾患	22
55	アジソン病	3	110	好酸球性副鼻腔炎	48
			111	左肺動脈右肺動脈起始症	1
			112	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	112
合計患者数(人)	1,735

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・ハイリスク分娩等管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算1	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療感染対策加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・特定機能病院入院基本料(7対1)	バイオ後続品使用体制加算
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算3	・データ提出加算2 イ
・医師事務作業補助体制加算2(20対1)	・入退院支援加算1 入院時支援加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)(補助者5割以上)、夜間急性期看護補助体制加算(100対1)、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算2	・入退院支援加算3
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料1(小児加算)(救急体制充実加算1)(早期離床・リハビリテーション加算)
・緩和ケア診療加算(個別栄養食事管理加算)	・特定集中治療室管理料1(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料3(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・栄養サポートチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
・医療安全対策加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料1・2(成育連携支援加算)
・感染防止対策向上加算1(指導強化加算)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・患者サポート体制充実加算	・小児入院医療管理料1(プレイルーム加算)(養育支援体制加算)
・重症患者初期支援充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2に規定する施設基準	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来栄養食事指導料(注2外来化学療法実施患者の栄養食事指導を行う場合)	・人工中耳植込術
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・糖尿病合併症管理料	・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・がん患者指導管理料イ	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・がん患者指導管理料ハ	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・がん患者指導管理料ニ	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・外来緩和ケア管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳癌センチネルリンパ節生検加算1又は乳癌センチネルリンパ節生検加算2を算定する場合に限る。)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ゲル充填人工乳房を用いた再建手術(乳房切除後)
・糖尿病透析予防指導管理料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・小児運動器疾患指導管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・気管支バルブ留置術
・婦人科特定疾患治療管理料	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腎代替療法指導管理料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・一般不妊治療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料1	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・地域連携小児夜間・休日診療料2	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・地域連携夜間・休日診療料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・院内トリアージ実施料	
・外来放射線照射診療料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・ニコチン依存症管理料	・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・療養・就労両立支援指導料(注3に掲げる相談支援加算)	・経皮的僧帽弁クリップ術

・がん治療連携計画策定料	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))
・外来排尿自立指導料	・磁気ナビゲーション加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・経皮的中隔心筋焼灼術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・薬剤管理指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・医療機器安全管理料1	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・医療機器安全管理料2	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・歯科治療時医療管理料	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・救急患者連携搬送料	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)皮下連続式グルコース測定	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・遺伝学的検査の注2に規定する基準	・経皮的下肢動脈形成術
・染色体検査の注2に規定する基準	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・骨髓微小残存病変量測定	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・BRCA1/2遺伝子検査	
・がんゲノムプロファイリング検査	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・先天性代謝異常症検査	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・検体検査管理加算(I)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・検体検査管理加算(II)	・体外衝撃波胆石破砕術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下肝切除術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・生体部分肝移植術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・体外衝撃波膀胱石破砕術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・皮下連続式グルコース測定	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・神経学的検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・補聴器適合検査	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・センチネルリンパ節生検	・同種死体腎移植術
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・生体腎移植術
・口腔細菌定量検査	・膀胱水圧拡張術およびハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・精密触覚機能検査	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算1	・埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・画像診断管理加算4	・精巣温存手術
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・冠動脈CT撮影加算(64列以上のマルチスライス型の機器によるCT撮影)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外傷全身CT加算(64列以上のマルチスライス型の機器によるCT撮影)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・心臓MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・乳房MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・頭部MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・全身MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・胎児輸血術
・外来化学療法加算1	・体外式膜型人工肺管理料
・無菌製剤処理料	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・子宮付属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)(初期加算)	・輸血管理料Ⅰ
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・輸血適正使用加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・自己クリオプレシピテート作製法(用手法)
・がん患者リハビリテーション料	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・レーザー機器加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・麻酔管理料(Ⅰ)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・周術期薬剤管理加算
・人工腎臓(慢性維持透析1)	・放射線治療専任加算
・導入期加算3	・外来放射線治療加算
・透析液水質確保加算および慢性維持透析濾過加算	・高エネルギー放射線治療
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・1回線量増加加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・強度変調放射線治療(IMRT)
・ストーマ合併症加算	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・心不全に対する遠赤外線温熱療法	・体外照射呼吸性移動対策加算
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・定位放射線治療
・CAD/CAM冠	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・皮膚悪性腫瘍切除術(皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算を算定する場合に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・自家脂肪注入	・保険医療機関間の連携による病理診断
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・病理診断管理加算2
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・看護職員処遇改善評価料
・椎間板内酵素注入療法	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・緊急穿頭血腫除去術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)

・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・入院ベースアップ評価料
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
周術期のための遠隔プレハビリテーションシステムの開発とその効果検証	笠井 史人	リハビリテーション科	600,000	補委 日本学術振興会
転倒から急性疾病を見抜く救急外来向けチェックリストの開発と検証:AI応用への挑戦	垂水 庸子	救急診療科	900,000	補委 日本学術振興会
熱中症・敗血症(全身性炎症)における急性期～中長期の神経・液性シグナル連関の解明	宮本 和幸	救命救急科	4,110,000	補委 日本学術振興会
神経ペプチドPACAPの熱中症による全身および神経炎症抑制機構の解明	土肥 謙二	救命救急科	3,200,000	補委 日本学術振興会
熱中症における熱産生調節機構の解明と予防戦略の確立	鈴木 恵輔	救命救急科	1,600,000	補委 日本学術振興会
シミュレーションシステムによる反復学修はアナフィラキシーへの対応能力を向上させる	鈴木 慎太郎	呼吸器・アレルギー内科	200,000	補委 日本学術振興会
COPD患者におけるフレイル発症・進行因子の特定	平井 邦朗	呼吸器・アレルギー内科	200,000	補委 日本学術振興会
気道上皮角層蛋白発現と気道上皮バリアー機能を改善する新規喘息治療法の開発	井上 英樹	呼吸器・アレルギー内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
喘息患者における広域周波オシレーション法での呼吸抵抗に基づいた新規治療法の探求	宮田 祐人	呼吸器・アレルギー内科	800,000	補委 日本学術振興会
妊婦血漿中cfDNAのゲノム解析データを用いた周産期予後の評価法の開発	関沢 明彦	産婦人科	1,400,000	補委 日本学術振興会
ゲノム異常を用いた子宮体癌のリンパ節転移を術前に予測する機械学習モデルの構築	朝見 友香	産婦人科	1,000,000	補委 日本学術振興会
HPVワクチンの有効性:ブレイクスルー症例の解析	小貫 麻美子	産婦人科	400,000	補委 日本学術振興会
妊娠高血圧腎症発症のメカニズムの解析:妊娠初期の胎盤のエピゲノム異常の解明	川嶋 章弘	産婦人科	900,000	補委 日本学術振興会
HPVワクチン接種後の血清抗体:発症予防抗体価と持続期間の検討	松本 光司	産婦人科	900,000	補委 日本学術振興会
微小環境におけるイソ酪酸の癌免疫応答作用機序の解明	村山 正和	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委 日本学術振興会
慢性副鼻腔炎におけるバイオマーカーとしてのペリオスチンの有用性の検討	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科	100,000	補委 日本学術振興会
Th17細胞のPD-1受容体結合率及びボドプラニン発現と臨床アウトカム的相关解析	平澤 優弥	腫瘍内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
免疫療法不応の克服に向けた可溶性免疫チェックポイントの解析及び膀胱癌治療への応用	大熊 遼太郎	腫瘍内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害の腫瘍神経免疫学的病態解析による定量評価法の開発	有泉 裕嗣	腫瘍内科	800,000	補委 日本学術振興会
肝細胞癌の抗腫瘍免疫回避におけるβ-cateninの分子機序の解明と治療応用	下川 雅弘	腫瘍内科	900,000	補委 日本学術振興会
ブラク内出血とハプトグロビン遺伝子多型から見た新たな冠動脈イベント予防戦略	松本 英成	循環器内科	700,000	補委 日本学術振興会
極低出生体重児に対する経母乳ヒトサイトメガロウイルス感染症対策	水野 克己	小児科	300,000	補委 日本学術振興会

早産児に対する亜鉛早期補充の臨床的検討	宮沢 篤生	小児科	700,000	補委	日本学術振興会
鶏卵アレルギー経口免疫療法の舌下免疫療法併用効果に関するランダム化対照比較試験	今井 孝成	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
異なる生活環境における腸内細菌叢の違いに着目したアレルギー疾患発症因子の解明	岡田 祐樹	小児科	1,000,000	補委	日本学術振興会
3Dプリンティングによる動脈管ステント留置最適化アルゴリズムの構築	藤井 隆成	小児循環器内科	400,000	補委	日本学術振興会
非造影MRIによる先天性心疾患患者のリンパ管の形態評価に関する研究	加藤 真理子	小児循環器内科	900,000	補委	日本学術振興会
先天性心疾患における術後リンパ管合併症の発症予測と早期診断法の確立に関する研究	喜瀬 広亮	小児循環器内科	500,000	補委	日本学術振興会
アミノ基付加DLCコーティング人工血管開発と、官能基がDLCに及ぼす効果の検討	堀尾 直裕	小児心臓血管外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
消化器癌における術中リアルタイムがん診断自動解析システムの新規開発	青木 武士	消化器・一般外科	100,000	補委	日本学術振興会
肝腫瘍に対する肝表層血管構造のAI診断に基づきリアルタイム解析システムの開発	松田 和広	消化器・一般外科	600,000	補委	日本学術振興会
終末糖化産物測定による新たな食道癌手術侵襲評価マーカーの開発	山下 剛史	食道がんセンター	2,000,000	補委	日本学術振興会
より安全な低侵襲下手術を目的としたエネルギーデバイスによる熱損傷の検証	大塚 耕司	食道がんセンター	400,000	補委	日本学術振興会
少子化対策としての心停止下提供子宮移植普及へ向けた基礎研究(動物実験モデル)	加藤 容二郎	腎移植センター	700,000	補委	日本学術振興会
CKDのリン代謝異常による新規臓器毒性の探究	溝渕 正英	腎臓内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病の栄養障害・サルコペニアの発症・進展とエピゲノム異常の関係	本田 浩一	腎臓内科	300,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した腹膜中皮細胞移植治療の有用性の検討	加藤 憲	腎臓内科	2,100,000	補委	日本学術振興会
髄鞘を標識した遺伝子改変メダカを用いた骨折治癒過程における髄鞘の動態解明	百々 悠介	整形外科	855,205	補委	日本学術振興会
脊椎術後骨量減少の診断・治療法の確立	岡野 市郎	整形外科	500,000	補委	日本学術振興会
「骨の質」を基盤とした術後合併症予測モデルの国際展開	石川 紘司	整形外科	11,900,000	補委	日本学術振興会
首下がり症の病態解明と治療戦略の確立	工藤 理史	整形外科	900,000	補委	日本学術振興会
損傷脊髄に生着しやすい骨髄間葉系幹細胞の特性化と予見的選択法の開発	平泉 裕	整形外科	700,000	補委	日本学術振興会
高齢者の手術リスクを可視化する:合併症予測モデルを基軸とした最適な術式選択	石川 紘司	整形外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
糖尿病心筋症の新たな治療法の開発-終末糖化産物阻害アプタマーを用いた解析	福井 智康	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
終末糖化産物を標的としたフレイルに対する包括的な治療手段の開発	大坂 直也	糖尿病・代謝・内分泌内科	700,000	補委	日本学術振興会
早期社会復帰に向けた嚥下訓練支援アプリ使用によるQOLおよび全身・嚥下機能の変化	田下 雄一	頭頸部腫瘍センター	300,000	補委	日本学術振興会

原発乳癌リンパ節転移陽性患者における術前化学療法後腋窩郭清省略の多施設共同研究	林 直輝	乳腺外科	300,000	補委	日本学術振興会
乳癌術前化学療法後の腫瘍修復を標的とした新規手術・診断システムの開発	垂野 香苗	乳腺外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
化学療法誘因性末梢神経障害への冷却療法に対する血流スコープ評価と新規治療法の開発	松井 祐輝	泌尿器科	1,400,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析を用いた全身性強皮症新規標的分子の解析	雷 小峰	皮膚科	700,000	補委	日本学術振興会
ストレス誘導性口腔内細菌叢のバランス異常に対する唾液メラトニンの影響の解明	菊池 真理子	病院歯科	1,200,000	補委	日本学術振興会
AIを活用した食道がん術後再発に対する放射線治療の効果予測	加藤 正子	放射線治療科	300,000	補委	日本学術振興会
新MRI解析方法NODDIを活用した全脳照射後における認知機能低下の原因探索	豊福 康介	放射線治療科	1,100,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群における脳脊髄液の比重変化と脊髄くも膜下麻酔範囲への影響	細川 幸希	麻酔科	200,000	補委	日本学術振興会
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	松本 光司	産婦人科	19,500,000	補委	日本医療研究開発機構
日・リトアニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究	中村 清吾	乳腺外科	8,954,000	補委	日本医療研究開発機構
ナッツ類アレルギーの診断精度向上のための新規アレルゲンコンポーネントの開発	今井 孝成	小児科	260,000	補委	日本医療研究開発機構
細胞およびマウスモデルを用いたRhoBTB2関連神経発達症の分子病態解明と疾患概念の確立	加藤 光広	小児科	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌(pT1癌)に対するカベシタピン併用放射線療法の単群検証的試験(JCOG1612)	伊藤 芳紀	放射線治療科	0	補委	日本医療研究開発機構
小児用医療機器開発を推進する環境整備に関する研究	藤井 隆成	小児循環器内科学	9,100,000	補委	日本医療研究開発機構
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 芳紀	放射線治療科	390,000	補委	日本医療研究開発機構
下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy (TNT)および watch and wait strategyの第II/III相単群検証的試験	伊藤 芳紀	放射線治療科	390,000	補委	日本医療研究開発機構
重症化ゼロを目指したスギ・ヒノキ花粉症に対するアレルゲン免疫療法の開発	平野 康次郎	耳鼻咽喉科	650,000	補委	日本医療研究開発機構
ARXポリアラニン伸長変異によるウエスト症候群の病態解明	加藤 光広	小児科	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関するランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療科	520,000	補委	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療科	260,000	補委	日本医療研究開発機構
高齢者初発膠芽腫に対する分子分類に応じたテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発	伊藤 芳紀	放射線治療科	130,000	補委	日本医療研究開発機構
脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定およびシステム開発に関する研究	木庭 新治	循環器内科	1,040,000	補委	日本医療研究開発機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	39,000	補委	日本医療研究開発機構
臨床病期I-IVA(T4を除く)胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験	大塚 耕司	食道がんセンター	1,001,000	補委	日本医療研究開発機構
妊婦血中遊離核酸を標的とした診断ゲノミクス技術レパートリーの確立	関沢 明彦	産婦人科	¥400,000	補委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター

成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥350,000	補委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
高精度放射線治療の実施体制の確立と医療安全に関する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	代表者一括	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	関沢 明彦	産婦人科	¥200,000	補委	こども家庭庁
生殖・周産期に係る倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)の検討のための研究	関沢 明彦	産婦人科	¥2,800,000	補委	こども家庭庁
出生前検査に関する情報提供体制、遺伝カウンセリング体制、支援体制の構築のための研究	関沢 明彦	産婦人科	代表者一括	補委	こども家庭庁
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	宮沢 篤生	小児科	¥200,000	補委	こども家庭庁
出生前検査に関する情報提供体制、遺伝カウンセリング体制、支援体制の構築のための研究	小出 馨子	産婦人科	代表者一括	補委	こども家庭庁
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	小出 馨子	産婦人科	¥200,000	補委	こども家庭庁
ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究	水野 克己	小児科	¥4,500,000	補委	こども家庭庁
基礎疾患を持つ方に対するプレコンセプションケアの情報提供の充実のための研究	長村 杏奈	糖尿病・代謝・内分泌内科	¥100,000	補委	こども家庭庁
出生前検査に関する情報提供体制、遺伝カウンセリング体制、支援体制の構築のための研究	白土 なほ子	産婦人科	代表者一括	補委	こども家庭庁
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	加藤 光広	小児科	¥800,000	補委	厚生労働省
稀少てんかんの診療指針と包括医療の研究	加藤 光広	小児科	¥1,500,000	補委	厚生労働省
持続可能な周産期医療と医療機関の役割分担を目的とした周産期医療圏の全国実態把握調査	関沢 明彦	産婦人科	¥100,000	補委	厚生労働省
学校・保育所等におけるアレルギー疾患を有するこどもの安心・安全・生き生きとした活動を保証する生活管理指導表の運用・管理体制向上をめざす研究	今井 孝成	小児科	¥1,000,000	補委	厚生労働省
食物経口負荷試験の標準的施行方法の確立と普及を目指す研究	鈴木 慎太郎	呼吸器・アレルギー内科	代表者一括	補委	厚生労働省

計 87

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2		別紙のとおり			
3					
4					
5					
6					
～					
70					
～					

計161件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Fukuda Yosuke, Hayashi Hidenori, Sagara Hironori	呼吸器・アレルギー内科	COVID-19-Induced Eosinophilic Lower Airway Inflammation in Those With Multiple COVID-19 Vaccinations	Cureus. 2023 May 1;15(5):e38368. (オンライン)	Case Reports
2	Fukuda Yosuke, Mochizuki Kaoru, Ijichi Miharuru, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Efficacy of Additional Corticosteroids After Dexamethasone Treatment for Moderate to Severe COVID-19: An Observational Study	Cureus. 2023 Aug 9;15(8):e43179. (オンライン)	Journal Article
3	Fukuda Yosuke, Homma Tetsuya, Sagara Hironori	呼吸器・アレルギー内科	Clinical inertia in asthma	NPJ Prim Care Respir Med. 2023 Oct 14;33(1):34. (オンライン)	Review
4	Fukuda Yosuke, Horita Nobuyuki, Aga Masaharu, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Efficacy and safety of macrolide therapy for adult asthma: A systematic review and meta-analysis	Respir Investig. 2024 Mar;62(2):206-215.	Journal Article
5	Hirai Kuniaki, Tanaka Akihiko, Oda Naruhito, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Prevalence and Impact of Social Frailty in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2023 Sep 25;18:2117-2126. (オンライン)	Journal Article
6	Ijichi M, Fukuda Y, Kashima A, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Endobronchial Metastases in Lung Cancer Harboring EML4-ALK Rearrangement	Intern Med. 2023 Jul 1;62(13):2021-2022. (オンライン)	Case Reports
7	Tanaka Akihiko, Takahashi Mai, Fukui Ayako, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Oral Corticosteroid Reduction Between Biologics Initiated and Non-Initiated Patients with Severe Asthma	J Asthma Allergy. 2023 Aug 14;16:839-849. (オンライン)	Journal Article
8	Yamamoto Shigenori, Matsui Hiroki, Fujioka Haruka, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Predictors of improvement of radial-endobronchial ultrasonography findings from "adjacent to" to "within" in endobronchial ultrasonography using a guide sheath: a retrospective cohort study	J Thorac Dis. 2024 Jan 30;16(1):264-272.	Journal Article
9	Takei Hidefumi, Kunitoh Hideo, Wakabayashi Masashi, et al.	呼吸器外科	Prospective, Multi-Institutional Observational Study of Deterioration in Activities of Daily Living in Elderly Patients After Lung Cancer Surgery	JTO Clin Res Rep. 2023 Jul 17;4(8):100550. (オンライン)	Journal Article
10	Enami Yuta, Aoki Takeshi, Tomioka Kodai, et al.	消化器・一般外科	Optimal Timing of Laparoscopic Cholecystectomy After Conservative Therapy for Acute Cholecystitis	Cancer Diagn Progn. 2023 Sep 3;3(5):571-576. (オンライン)	Journal Article
11	Hirai Takahito, Aoki Takeshi, Sasamoto Suguru, et al.	消化器・一般外科	Simple classification system for predicting the difficulty level of laparoscopic cholecystectomy	Showa Univ J Med Sci. 2024.03;36(1):16-24. (オンライン)	Journal Article
12	Inoki Kazuya, Takamaru Hiroyuki, Furuhashi Hiroto, et al.	消化器・一般外科	Management of colorectal high-grade dysplasia or cancer resected by cold snare polypectomy: a multicenter exploratory study	J Gastroenterol. 2023 Jun;58(6):554-564.	Journal Article
13	Katagiri Atsushi, Suzuki Norihiro, Nakatani Shinya, et al.	消化器・一般外科	Submucosal Injection Using Epinephrine-Added Saline in Cold Snare Polypectomy for Colorectal Polyps Shortens Time Required for Resection: A Randomized Controlled Study	Cureus. 2023 May 17;15(5):e39164. (オンライン)	Journal Article
14	Matsuda Kazuhiro, Aoki Takeshi, Watanabe Makoto, et al.	消化器・一般外科	Comparison of Endotoxin Activity Assay and Various Biomarkers for Severity Assessment in Colorectal Perforation Patients	Am Surg. 2023 Jun;89(6):2854-2856. (オンライン)	Journal Article
15	Mochizuki Kiyotaka, Aoki Takeshi, Kusano Tomokazu, et al.	消化器・一般外科	Laparoscopic Resection of a Hepatic Epithelioid Angiomyolipoma Revealed by Indocyanine Green Fluorescence Imaging	Am Surg. 2023 May;89(5):2061-2063. (オンライン)	Case Reports
16	Tashiro Yoshihiko, Aoki Takeshi, Kobayashi Nao, et al.	消化器・一般外科	Color-coded laparoscopic liver resection using artificial intelligence: A preliminary study	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Feb;31(2):67-68.	Journal Article
17	Tashiro Yoshihiko, Aoki Takeshi, Kusano Tomokazu, et al.	消化器・一般外科	Simultaneous tumor identification, cholangiography, and securing surgical margin for recurrence of hepatocellular carcinoma using the Medical Imaging Projection System	Surg Oncol. 2023 Jun;48:101938. (オンライン)	Case Reports
18	Tomioka Kodai, Aoki Takeshi, Matsuda Kazuhiro, et al.	消化器・一般外科	Clinical Treatment of Perioperative Disseminated Intravascular Coagulation in Patients Who Underwent Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	Am Surg. 2023 Apr;89(4):907-913. (オンライン)	Journal Article
19	Tomioka Kodai, Aoki Takeshi, Kobayashi Nao, et al.	消化器・一般外科	Development of a Novel Artificial Intelligence System for Laparoscopic Hepatectomy	Anticancer Res. 2023 Nov;43(11):5235-5243.	Journal Article
20	Tomioka Kodai, Aoki Takeshi, Tashiro Yoshihiko, et al.	消化器・一般外科	Laparoscopic Anatomical Liver Resection Using Liver Mapping of Incidental Indocyanine Green Fluorescence due to Cholestasis	Anticancer Res. 2023 Dec;43(12):5583-5588.	Others
21	Chino Saori, Mochizuki Yasuhide, Mizuma Keita, et al.	循環器内科	Reply to 'patent foramen ovale device closure for patients with stroke and high-risk PFO morphology'	Heart Vessels. 2023 Jun;38(6):871-872.	Letter

22	Gohbara Sakiko, Mochizuki Yasuhide, Fujii Takanari, et al.	循環器内科	Isolated right ventricular hypoplasia associated with cyanotic atrial septal defect: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2024 Feb 20;8(3):ytae094. (オンライン)	Case Reports
23	Higuchi Satoshi, Matsumoto Hidenari, Masaki Ryota, et al.	循環器内科	Potential confounders of the obesity paradox in older patients following transcatheter aortic valve replacement	Eur Geriatr Med. 2024 Feb;15(1):179-187.	Journal Article
24	Higuchi Satoshi, Mochizuki Yasuhide, Omoto Tadashi, et al.	循環器内科	Clinical impact of the right ventricular impairment in patients following transcatheter aortic valve replacement	Sci Rep. 2024 Jan 20;14(1):1776. (オンライン)	Journal Article
25	Kondo Seita, Mizukami Takuya, Kobayashi Nobuaki, et al.	循環器内科	Diagnosis and Prognostic Value of the Underlying Cause of Acute Coronary Syndrome in Optical Coherence Tomography-Guided Emergency Percutaneous Coronary Intervention	J Am Heart Assoc. 2023 Oct 17;12(20):e030412. (オンライン)	Journal Article
26	Sakai Koshiro, Mizukami Takuya, Leipsic Jonathon, et al.	循環器内科	Coronary Atherosclerosis Phenotypes in Focal and Diffuse Disease	JACC Cardiovasc Imaging. 2023 Nov;16(11):1452-1464.	Journal Article
27	Sekimoto Teruo, Sato Shunya, Mori Hiroyoshi, et al.	循環器内科	Percutaneous coronary intervention for a healed erosion with excimer laser coronary angioplasty and drug-coated balloon angioplasty: a case report	Front Cardiovasc Med. 2023 Aug 21;10:1153891. (オンライン)	Case Reports
28	Sekimoto Teruo, Koba Shinji, Mori Hiroyoshi, et al.	循環器内科	Association between Eicosapentaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratio and Characteristics of Plaque Rupture	J Atheroscler Thromb. 2023 Nov 1;30(11):1687-1702. (オンライン)	Journal Article
29	Tanisawa Hiroki, Matsumoto Hidenari, Cadet Sebastien, et al.	循環器内科	Quantification of Low-Attenuation Plaque Burden from Coronary CT Angiography: A Head-to-Head Comparison with Near-Infrared Spectroscopy Intravascular US	Radiol Cardiothorac Imaging. 2023 Oct 12;5(5):e230090. (オンライン)	Journal Article
30	Toyosaki Eiji, Mochizuki Yasuhide, Den Hiroki, et al.	循環器内科	Relationship Between Results of Pathological Evaluation of Endomyocardial Biopsy and Echocardiographic Indices in Patients With Non-Ischemic Cardiomyopathy	Circ Rep. 2023 Aug 1;5(8):331-337. (オンライン)	Journal Article
31	Aoki Atsushi, Maruta Kazuto, Masuda Tomoaki, et al.	心臓血管外科	Factors Influencing on the Aneurysm Sac Shrinkage after Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair by the Analysis of the Patients with the Aneurysm Sac Shrinkage and Expansion	Ann Vasc Dis. 2023.12;16(4):245-252.	Journal Article
32	Sano Shunji, Cocalis Mark	小児心臓血管外科	What is the best treatment for patients with borderline Fontan?	Eur J Cardiothorac Surg. 2023 Apr 3;63(4):ezad124. (オンライン)	Others
33	Sano Shunji	小児心臓血管外科	How to protect the right ventricle in hypoplastic left heart syndrome	Eur J Cardiothorac Surg. 2024 Mar 29;65(4):ezae119. (オンライン)	Others
34	Asami Yuka, Kobayashi Kato Mayumi, Hiranuma Kengo, et al.	産婦人科	Utility of molecular subtypes and genetic alterations for evaluating clinical outcomes in 1029 patients with endometrial cancer	Br J Cancer. 2023 Apr;128(8):1582-1591.	Journal Article
35	Goda Mayuko, Arakaki Tatsuya, Takita Hiroko, et al.	産婦人科	Does maternal oxygen administration during non-reassuring fetal status affect the umbilical artery gas measures and neonatal outcomes?	Arch Gynecol Obstet. 2024 Mar;309(3):993-1000. (オンライン)	Journal Article
36	Kogure Gota, Tanaka Kohsei, Matsui Tomoya, et al.	産婦人科	Intra-Patient Genomic Variations of Human Papillomavirus Type 31 in Cervical Cancer and Precancer	Viruses. 2023 Oct 17;15(10):2104. (オンライン)	Journal Article
37	Koike Ryo, Yunokawa Mayu, Omatsu Kohei, et al.	産婦人科	Retrospective study of the efficacy and safety of docetaxel/carboplatin combination therapy as postoperative adjuvant chemotherapy for nonsquamous cell carcinoma of the cervix	Int J Clin Oncol. 2023 Oct;28(10):1421-1430.	Journal Article
38	Matsushita Tomomi, Arakaki Tatsuya, Sekizawa Akihiko, et al.	産婦人科	Pregnancy-related maternal deaths due to cardiovascular diseases in Japan from 2010 to 2019: an analysis of maternal death exploratory committee data	J Matern Fetal Neonatal Med. 2023 Dec;36(1):2175207. (オンライン)	Journal Article
39	Mukai Yuki, Takita Hiroko, Tokunaka Mayumi, et al.	産婦人科	Does the timing of neuraxial analgesia initiation in elective induction of multiparous women prolong the duration of delivery?	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Nov;49(11):2686-2691. (オンライン)	Journal Article
40	Nagashima Minoru, Ishikawa Tetsuya, Asami Yuka, et al.	産婦人科	Risk-reducing salpingo-oophorectomy for Japanese women with hereditary breast and ovarian cancer: a single-institution 10-year experience	Jpn J Clin Oncol. 2023 Jun 1;53(6):472-479.	Journal Article
41	Nishii Shogo, Ishikawa Tetsuya, Okada Yoshiyuki, et al.	産婦人科	Laparoscopic Sacrohysteropexy for Pelvic Organ Prolapse and the Technique Used for Uterine Preservation: A Case Report	Cureus. 2024 Feb 26;16(2):e54989. (オンライン)	Case Reports
42	Onuki Mamiko, Takahashi Fumiaki, Iwata Takashi, et al.	産婦人科	Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study	Cancer Sci. 2023 Nov;114(11):4426-4432.	Journal Article
43	Adachi Masanori, Motegi Sakura, Nagahara Keiko, et al.	小児科	Classification of pseudohypoadosteronism type II as type IV renal tubular acidosis: results of a literature review	Endocr J. 2023 Jul 28;70(7):723-729. (オンライン)	Review
44	Honda Aiko, Okada Yoshiyuki, Matsushita Tomomi, et al.	小児科	Efficacy of biological agents combined with oral immunotherapy (OIT) for food allergy: a protocol for a systematic review and meta-analysis	BMJ Open. 2024 Feb 7;14(2):e075253. (オンライン)	Journal Article

45	Kunigami Chihiro, Imai Takanori, Yamashita Kosei, et al.	小児科	Relationship between the diagnosis of food protein-induced enterocolitis syndrome and postemetic procalcitonin levels	J Allergy Clin Immunol Glob. 2023 Jul 26;2(4):100156. (オンライン)	Journal Article
46	Samejima Mai, Nakashima Mitsuko, Shibasaki Jun, et al.	小児科	Splicing variant of WDR37 in a case of Neurooculocardiogenitourinary syndrome	Brain Dev. 2024 Mar;46(3):154-159.	Case Reports
47	Shirai Madoka, Honda Aiko, Takagi Toshiyuki, et al.	小児科	An adolescent case of Kawasaki disease after Japanese encephalitis vaccination	Showa Univ J Med Sci. 2023.10;35(3):138-141. (オンライン)	Journal Article
48	Toyoda Junya, Adachi Masanori, Ochi Ayako, et al.	小児科	Pseudo-Bartter syndrome in an infant without obvious underlying conditions: A case report	Clin Pediatr Endocrinol. 2023.07;32(3):155-160.	Journal Article
49	Watanabe Yoshitaka, Fuyama Masaki, Abe Yoshifusa, et al.	小児科	Delayed diagnosis and exacerbation of hyperlipidemia in idiopathic nephrotic syndrome in children during the COVID-19 pandemic	Clin Exp Nephrol. 2023 Nov;27(11):936-940.	Journal Article
50	Yamashita Kosei, Nakamura Toshinori, Imai Takanori, et al.	小児科	Optimal period for achieving sustained unresponsiveness in peanut oral immunotherapy	Asia Pac Allergy. 2023 Sep;13(3):97-104.	Journal Article
51	Yamashita Kosei, Okada Yuki, Honda Aiko, et al.	小児科	Clinical Features of Quail Egg Ingestion in Patients with Acquired Tolerance to Hen Eggs: A Case Series Study	Int Arch Allergy Immunol. 2024;185(2):152-157.	Journal Article
52	Chiba Masahiro, Masumoto Kouji, Kaji Tatsuru, et al.	小児外科	Efficacy and Safety of Teduglutide in Infants and Children With Short Bowel Syndrome Dependent on Parenteral Support	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2023 Sep 1;77(3):339-346. (オンライン)	Journal Article
53	Matsuda Yoshikazu, Terada Tomoaki, Sakamoto Yu, et al.	脳神経外科	Intracranial Non-Sinus-Type Dural Arteriovenous Fistulas Could Be Curable by Transarterial Embolization or Transvenous Embolization with Liquid Embolic Material	JNET: J Neuroendovasc Ther. 2023.09;17(7-9):196-201.	Journal Article
54	Inoue Gen, Ohtaki Yuhei, Satoh Kazue, et al.	救命救急科	Sedation Therapy in Intensive Care Units: Harnessing the Power of Antioxidants to Combat Oxidative Stress	Biomedicines. 2023 Jul 28;11(8):2129. (オンライン)	Journal Article
55	Miyamoto Kazuyuki, Takayasu Hiromi, Katsuki Shino, et al.	救命救急科	Laryngopharyngeal Mucosal Injury Due to Nasogastric Tube Insertion during Cardiopulmonary Resuscitation: A Retrospective Cohort Study	J Clin Med. 2024 Jan 2;13(1):261. (オンライン)	Journal Article
56	Suzuki Keisuke, Miyamoto Kazuyuki, Kanai Takahiro, et al.	救命救急科	Single-photon emission computed tomography (SPECT) predicted neurological prognosis in heat stroke: A case report	Heliyon. 2023 Jul 20;9(7):e18285. (オンライン)	Case Reports
57	Yagi Masaharu, Kasanami Ryoji, Tarumi Yoko, et al.	救命救急科	Medical Care Management Based on Disaster Medicine for the Triathlon Events at the XXXII Olympiad and Tokyo 2020 Paralympic Games	Int J Environ Res Public Health. 2023 Oct 7;20(19):6891. (オンライン)	Review
58	Fukui Tomoyasu, Kobayashi Tetsuro, Jimbo Erika, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Bi-glandular and persistent enterovirus infection and distinct changes of the pancreas in slowly progressive type 1 diabetes mellitus	Sci Rep. 2023 Apr 28;13(1):6977. (オンライン)	Journal Article
59	Hirano Tsutomu, Hayashi Toshiyuki, Sugita Hiroe, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Prospective randomized comparative study of the effect of pemafibrate add-on or double statin dose on small dense low-density lipoprotein-cholesterol in patients with type 2 diabetes and hypertriglyceridemia on statin therapy	J Diabetes Investig. 2023 Dec;14(12):1401-1411. (オンライン)	Journal Article
60	Mori Yusaku, Ohara Makoto, Terasaki Michishige, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Subcutaneous Infusion of DNA-Aptamer Raised against Advanced Glycation End Products Prevents Loss of Skeletal Muscle Mass and Strength in Accelerated-Aging Mice	Biomedicines. 2023 Nov 22;11(12):3112. (オンライン)	Journal Article
61	Omachi Takemasa, Ohara Makoto, Fujikawa Tomoki, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of Effects of Injectable Semaglutide and Dulaglutide on Oxidative Stress and Glucose Variability in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: A Prospective Preliminary Study	Diabetes Ther. 2024 Jan;15(1):111-126.	Journal Article
62	Takehana Nobuaki, Fukui Tomoyasu, Mori Yusaku, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of positive rates between glutamic acid decarboxylase antibodies and ElisaRSR™ 3 Screen ICA™ in recently obtained sera from patients who had been previously diagnosed with slowly progressive type 1	J Diabetes Investig. 2023 Jul;14(7):856-863. (オンライン)	Journal Article
63	Terasaki Michishige, Izumi Mikiko, Yamagishi Sho-Ichi	糖尿病・代謝・内分泌内科	A Clinical Case of Probable Sitosterolemia	Int J Mol Sci. 2024 Jan 26;25(3):1535. (オンライン)	Case Reports
64	Iseri Ken, Mizobuchi Masahide, Winzenrieth Renaud, et al.	腎臓内科	Long-Term Effect of Denosumab on Bone Disease in Patients with CKD	Clin J Am Soc Nephrol. 2023 Sep 1;18(9):1195-1203.	Journal Article
65	Iseri Ken, Miyakoshi Chisato, Joki Nobuhiko, et al.	腎臓内科	α-Blocker Use in Hemodialysis: The Japan Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study	Kidney Med. 2023 Jul 4;5(9):100698. (オンライン)	Journal Article
66	Kanazawa Nobuhiro, Iyoda Masayuki, Suzuki Taihei, et al.	腎臓内科	Exploring the significance of interleukin-33/ST2 axis in minimal change disease	Sci Rep. 2023 Oct 31;13(1):18776. (オンライン)	Journal Article

67	Saito Tomohiro, Mizobuchi Masahide, Sakai Mariko, et al.	腎臓内科	Effects of evocalcet on parathyroid calcium-sensing receptor and vitamin D receptor expression in uremic rats	FASEB J. 2023 Aug;37(8):e23094. (オンライン)	Journal Article
68	Suzuki Taihei, Nishiwaki Hiroki, Watanabe Yoshitaka, et al.	腎臓内科	Outcomes of discontinuing renin-angiotensin system inhibitors: a study protocol for conducting systematic review and meta-analysis	BMJ Open. 2023 May 3;13(5):e070345. (オンライン)	Journal Article
69	Suzuki Taihei, Iyoda Masayuki, Kanazawa Nobuhiro, et al.	腎臓内科	Effect of Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 Inhibition on Podocytes in Mouse Nephrotic Syndrome	Lab Invest. 2023 Sep;103(9):100199. (オンライン)	Journal Article
70	Wada Yukihiro, Jensen Camilla, Meyer Anna Sina Pettersson, et al.	腎臓内科	Efficacy and safety of interleukin-6 inhibition with ziltivekimab in patients at high risk of atherosclerotic events in Japan (RESCUE-2): A randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 2 trial	J Cardiol. 2023 Oct;82(4):279-285.	Journal Article
71	Sasaki Yohei, Murai So, Shiozawa Eisuke, et al.	血液内科	Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm in Long-Term Complete Remission After Venetoclax Monotherapy	Cureus. 2024 Jan 17;16(1):e52446. (オンライン)	Case Reports
72	Goshima Tsubasa, Ieguchi Katsuaki, Onishi Nobuyuki, et al.	腫瘍内科	Non-classical Monocytes Enhance the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors on Colon Cancer in a Syngeneic Mouse Model	Anticancer Res. 2024 Jan;44(1):23-29.	Journal Article
73	Hamada Kazuyuki, Isobe Junya, Hattori Kouya, et al.	腫瘍内科	Turicibacter and Acidaminococcus predict immune-related adverse events and efficacy of immune checkpoint inhibitor	Front Immunol. 2023 May 3;14:1164724. (オンライン)	Journal Article
74	Hosonuma Masahiro, Yoshimura Kiyoshi	腫瘍内科	Association between pH regulation of the tumor microenvironment and immunological state	Front Oncol. 2023 Jul 10;13:1175563. (オンライン)	Review
75	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Reynoso Jose, et al.	腫瘍内科	Old-age-induced obesity reversed by a methionine-deficient diet or oral administration of recombinant methioninase-producing Escherichia coli in C57BL/6 mice	Aging (Albany NY). 2023 Jun 9;15(11):4642-4648. (オンライン)	Journal Article
76	Kubota Yutaro, Aoki Yusuke, Masaki Noriyuki, et al.	腫瘍内科	Methionine restriction of glioma does not induce MGMT and greatly improves temozolomide efficacy in an orthotopic nude-mouse model: A potential curable approach to a clinically-incurable disease	Biochem Biophys Res Commun. 2024 Feb 5;695:149418. (オンライン)	Journal Article
77	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Aoki Yusuke, et al.	腫瘍内科	Synergy of Combining Methionine Restriction and Chemotherapy: The Disruptive Next Generation of Cancer Treatment	Cancer Diagn Progn. 2023 May 3;3(3):272-281. (オンライン)	Review
78	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Morinaga Sei, et al.	腫瘍内科	Recombinant-methioninase-producing Escherichia coli Instilled in the Microbiome Inhibits Triple-negative Breast Cancer in an Orthotopic Cell-line Mouse Model	Cancer Diagn Progn. 2023 Nov 3;3(6):649-654. (オンライン)	Journal Article
79	Kubota Yutaro, Wang April, Chang Neil, et al.	腫瘍内科	Precise Non-invasive Imaging Mouse Model of Pancreatic Cancer: Very Narrow Band-width Laser Fluorescence Excitation of Green Fluorescent Protein Provides Ultra-bright Tumor Images With no Skin Autofluorescence	Cancer Diagn Progn. 2024 Jan 3;4(1):30-33. (オンライン)	Journal Article
80	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Morinaga Sei, et al.	腫瘍内科	Rapid Reduction of CEA and Stable Metastasis in an NRAS-mutant Rectal-Cancer Patient Treated With FOLFIRI and Bevacizumab Combined With Oral Recombinant Methioninase and a Low-Methionine Diet Upon Metastatic Recurrence After FOLFIRI and Bevacizumab Treatment Alone	In Vivo. 2023 Sep-Oct;37(5):2134-2138. (オンライン)	Case Reports
81	Kubota Yutaro, Aoki Yusuke, Wang April, et al.	腫瘍内科	Non-invasive Fluorescence Imaging of Breast Cancer Metastasis to the Brain in an Orthotopic Nude-mouse Model With Very-narrow-band-width Laser Excitation of Red Fluorescent Protein Resulting in an Ultra-bright Signal Without Skin Autofluorescence	In Vivo. 2024 Jan-Feb;38(1):69-72. (オンライン)	Journal Article
82	Kubota Yutaro, Sato Toshihiko, Han Qinghong, et al.	腫瘍内科	[(11)C] Methionine-PET Imaging as a Cancer Biomarker for Methionine Addiction and Sensitivity to Methionine-restriction-based Combination Chemotherapy	In Vivo. 2024 Jan-Feb;38(1):253-258. (オンライン)	Journal Article
83	Ohkuma Ryotaro, Miura Sakiko, Muto Satoshi, et al.	腫瘍内科	Novel quantitative immunohistochemical analysis for evaluating PD-L1 expression with phosphor-integrated dots for predicting the efficacy of patients with cancer treated with immune checkpoint inhibitors	Front Immunol. 2023 Sep 18;14:1260492. (オンライン)	Journal Article
84	Suzuki Risako, Hamada Kazuyuki, Ohkuma Ryotaro, et al.	腫瘍内科	Case Report: Combined pembrolizumab, 5-fluorouracil, and cisplatin therapy were remarkably effective in p16-positive squamous cell carcinoma of unknown primary	Front Oncol. 2023 Jul 10;13:1231986. (オンライン)	Case Reports
85	Tsurui Toshiaki, Hirasawa Yuya, Kubota Yutaro, et al.	腫瘍内科	Anti-EGFR antibody monotherapy for colorectal cancer with severe hyperbilirubinemia: A case report	World J Gastrointest Oncol. 2024 Feb 15;16(2):557-562. (オンライン)	Case Reports
86	Masuda Hiroko, Tanabe Yuko, Sakai Hitomi, et al.	乳腺外科	Efficacy of probiotics and trimebutine maleate for abemaciclib-induced diarrhea: A randomized, open-label phase II trial (MERMAID, WJOG11318B)	Breast. 2023 Oct;71:22-28.	Journal Article

87	Atsumi Takashi, Nakanishi Ryosuke, Yoshikawa Yasushi, et al.	整形外科	High-degree posterior rotational osteotomy for extensive collapsed femoral head osteonecrosis in teenagers: remodeling and results with a mean of 10-year follow-up	Arch Orthop Trauma Surg. 2023 Oct;143(10):6039-6048. (オンライン)	Review
88	Dodo Yusuke, Okano Ichiro, Kelly Neil A, et al.	整形外科	The anatomical positioning change of retroperitoneal organs in prone and lateral position: an assessment for single-prone position lateral lumbar surgery	Eur Spine J. 2023 Jun;32(6):2003-2011.	Journal Article
89	Dodo Yusuke, Okano Ichiro, Kelly Neil A, et al.	整形外科	Risk Factors for Ambulatory Surgery Conversion to Extended Stay Among Patients Undergoing One-level or Two-level Posterior Lumbar Decompression	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Jun 1;48(11):748-757.	Journal Article
90	Dodo Yusuke, Okano Ichiro, Zelenty William D, et al.	整形外科	The Utilization of Intraoperative Neurophysiological Monitoring for Lumbar Decompression and Fusion Surgery in New York State	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Aug 1;48(15):1095-1106.	Journal Article
91	Nagai Takashi, Tomita Kazunari, Kubo Kazutoshi, et al.	整形外科	A case report of effective intra-articular elcatonin administration in a patient with osteonecrosis of the lunata	Int J Surg Case Rep. 2023 Apr;105:108056. (オンライン)	Case Reports
92	Nagasaki Kei, Yamada Atsushi, Sasa Kiyohito, et al.	整形外科	Kielin/chordin-like protein enhances induction of osteoblast differentiation by Bone Morphogenetic Protein-2	FEBS Open Bio. 2023 Jul;13(7):1357-1364. (オンライン)	Journal Article
93	Niitsuma Gaku, Okano Ichiro, Nishikawa Hiroki, et al.	整形外科	Long-term outcomes of Kudo type-5 unlinked surface-replacing total elbow arthroplasty for rheumatoid arthritis: a 15-year average follow-up study	J Shoulder Elbow Surg. 2024 Mar;33(3):564-572.	Journal Article
94	Nishi Masanori, Atsumi Takashi, Yoshikawa Yasushi, et al.	整形外科	High-Degree Valgus Osteotomy for Severe Femoral Head Osteonecrosis After Femoral Neck Fracture with Nonunion: A Case Report	JBJS Case Connect. 2023 May 19;13(2):e23.00051. (オンライン)	Case Reports
95	Tani Soji, Okano Ichiro, Dodo Yusuke, et al.	整形外科	Risk Factors for Unexpected Conversion From Ambulatory to Inpatient Admission Among One-level or Two-level ACDF Patients	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Oct 15;48(20):1427-1435.	Journal Article
96	Tsuchiya Koki, Okano Ichiro, Miyamoto Youhei, et al.	整形外科	Thoracic Spondylitis Associated with Sepsis and Neurological Deficit Caused by Edwardsiella tarda: A Case Report	Spine Surg Relat Res. 2023 Apr 21;7(6):547-550. (オンライン)	Journal Article
97	Tsuchiya Koki, Kobayashi Reon, Okano Ichiro, et al.	整形外科	Effectiveness of Pulsed Radiofrequency Based on the Minimum Clinically Important Differences in Lumbar Spine-Related Pain in Patients without Recent Lumbar Surgery	World Neurosurg. 2023 Nov;179:e75-e80.	Journal Article
98	Tsutsui Sadaaki, Okano Ichiro, Kuroda Takuma, et al.	整形外科	Corrective Osteotomy of Malunited Forearm Fractures for Volar Distal Radioulnar Joint Instability: A Case Report	JBJS Case Connect. 2023 May 26;13(2):e22.00800. (オンライン)	Case Reports
99	Tsutsui Sadaaki, Okano Ichiro, Kuroda Takuma, et al.	整形外科	Adjunctive intraosseous wiring fixation technique for the comminuted distal humeral fractures	JSES Rev Rep Tech. 2023 Jun 24;3(4):583-591. (オンライン)	Journal Article
100	Tsuzawa Kayo, Onimaru Hiroshi, Inagaki Katsunori, et al.	整形外科	Involvement of cannabinoid receptors in depression of the putative nociceptive response in spinal cord preparations isolated from neonatal rats	J Physiol Sci. 2023 Oct 6;73(1):23. (オンライン)	Journal Article
101	Nagai Takashi, Miyagami Makoto, Nakamura Shota, et al.	リハビリテーション科	Relationship between sacral-abdominal wall distance, movement performance, and spinal alignment in osteoporosis: a retrospective study	BMC Geriatr. 2024 Mar 12;24(1):252. (オンライン)	Journal Article
102	Nagai Takashi, Kuroda Takuma, Ishikawa Koji, et al.	リハビリテーション科	Pregnancy- and lactation-associated osteoporosis in the mother after the first and second children: A case report	Int J Surg Case Rep. 2023 Aug;109:108464. (オンライン)	Case Reports
103	Nagai Takashi, Miyagami Makoto, Okano Ichiro, et al.	リハビリテーション科	Association of Spinal Alignment and Abdominal Circumference with Sarcopenia Status and Fall Risk in Patients with Osteoporosis: A Retrospective Study	Nutrients. 2023 May 31;15(11):2571. (オンライン)	Journal Article
104	Sugiyama Tomoko, Whitney Daniel G, Schmidt Mary, et al.	リハビリテーション科	Measuring grip strength in adolescents and adults with cerebral palsy in a clinic setting: Feasibility, reliability, and clinical associations	Dev Med Child Neurol. 2024 Jan;66(1):87-94.	Journal Article
105	Takaoka Tetsuya, Hashimoto Keiji, Aoki Sayaka, et al.	リハビリテーション科	Effects of the abacus-based mental calculation training application "SoroTouch" on cognitive functions: A randomized controlled trial	PLoS One. 2024 Mar 12;19(3):e0299201. (オンライン)	Journal Article
106	Sakikawa Kei, Masaoka Yuri, Honma Motoyasu, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Role of the amygdala-medial orbitofrontal relationship in odor recognition in the elderly	Brain Behav. 2023 Apr;13(4):e2956. (オンライン)	Journal Article
107	Suzaki Isao, Tanaka Akihiko, Yanai Ryo, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis developed after dupilumab administration in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis and asthma: a case report	BMC Pulm Med. 2023 Apr 19;23(1):130. (オンライン)	Case Reports
108	Suzaki Isao, Miyoshi Naoto, Ishima Takahiro, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Successful Omalizumab Treatment of Rhinogenic Contact Point Headache Complicated by Severe Cedar Pollinosis: A Case Report	Cureus. 2023 Dec 24;15(12):e51046. (オンライン)	Case Reports
109	Hagihara Erina, Ito Haruka, Okamoto Takamasa, et al.	皮膚科	A case of apple-dependent, exercise-induced anaphylaxis with sensitization to gibberellin-regulated proteins	J Dermatol. 2023 Nov;50(11):e386-e387.	Case Reports

110	Izumi Teruaki, Teramoto Yukiko, Kamimura Anna, et al.	皮膚科	Favorable efficacy of S-1 treatment for locoregionally advanced cutaneous squamous cell carcinoma in the head and neck region	J Dermatol. 2024 Feb;51(2):271-279.	Journal Article
111	Shinya Koichiro, Nishimura Yuki, Ryu Kakei, et al.	皮膚科	Short-term administration of Polypodium leucotomos extract does not inhibit CYP3A4-mediated metabolism of midazolam in healthy subjects: an open-label, two-period, fixed-sequence study	Int J Dermatol. 2023 May;62(5):694-699.	Journal Article
112	Suzuki Marie, Koshikawa Sachiko, Watanabe Hideaki, et al.	皮膚科	Elevated serum osteopontin levels in patients with severe cutaneous adverse drug reactions	J Dermatol. 2023 Apr;50(4):536-540.	Journal Article
113	Hasebe Yuki, Naoe Michio	泌尿器科	Gamma-delta T cells are optimal immune cell carrier vehicles for adenovirus vector-based gene therapy	Showa Univ J Med Sci. 2023.10;35(3):103-111. (オンライン)	Journal Article
114	Hirayama Kidai, Fukagai Takashi, Morita Masashi, et al.	泌尿器科	Secondary bladder cancer after permanent iodine-125 brachytherapy for prostate cancer	Showa Univ J Med Sci. 2023.06;35(2):39-45. (オンライン)	Journal Article
115	Kurokawa Masahiro, Ikarashi Daiki, Kato Renpei, et al.	泌尿器科	A case of postoperative pancreatitis in patients with renal cell carcinoma with an inferior vena cava tumor thrombus treated by presurgical lenvatinib plus pembrolizumab	Int Cancer Conf J. 2024 Feb 14;13(2):158-161. (オンライン)	Journal Article
116	Matsui Yuki, Okada Sho, Nakagami Yoshihiro, et al.	泌尿器科	Primary retroperitoneal cavernous hemangioma: A case report and review of the literature	Urol Case Rep. 2024 Feb 26;54:102691. (オンライン)	Case Reports
117	Nepal Sat Prasad, Nakasato Takehiko, Fukagai Takashi, et al.	泌尿器科	Neutrophil-to-lymphocyte and platelet-to-lymphocyte ratios alone or combined with prostate-specific antigen for the diagnosis of prostate cancer and clinically significant prostate cancer	Asian J Urol. 2023 Apr;10(2):158-165.	Journal Article
118	Tsunokawa Yoshiki, Tsukada Mana, Inoue Tatsuki, et al.	泌尿器科	Analgesic Effect of the Kampo Formula Yokukansan via the Suppression of Substance P in an Experimental Rat Model of Hunner-Type Interstitial Cystitis	Cureus. 2024 Jan 14;16(1):e52238. (オンライン)	Journal Article
119	Koike Yuya, Kai Ryozo, Abe Ryosuke, et al.	放射線科	Outcomes of C-arm cone-beam CT-guided percutaneous procedures for thoracolumbar spondylodiscitis: a comparison between with and without intradiscal drainage	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2023 Apr;32(2):81-89. (オンライン)	Journal Article
120	Suzuki Keisuke, Kai Ryozo, Munechika Jiro, et al.	放射線科	Therapeutic challenges in transcatheter arterial embolization for an enlarging subcutaneous hematoma in a patient with neurofibromatosis type 1: A case report	Radiol Case Rep. 2024 Jan 5;19(3):1211-1214. (オンライン)	Case Reports
121	Ito Yoshinori, Hamaguchi Tetsuya, Takashima Atsuo, et al.	放射線治療科	Definitive S-1/mitomycin-C chemoradiotherapy for stage II/III anal canal squamous cell carcinoma: a phase I/II dose-finding and single-arm confirmatory study (JCOG0903)	Int J Clin Oncol. 2023 Aug;28(8):1063-1072.	Journal Article
122	Ishida Yusuke, Sekiguchi Shunya, Tsuzuki Yumi, et al.	麻酔科	Severe acute cholecystitis successfully treated with endoscopic nasobiliary drainage tube insertion: A case report	SAGE Open Med Case Rep. 2023 Nov 16;11:2050313X231212303. (オンライン)	Case Reports
123	Kobayashi Reon, Taketomi Asae, Hara Eiko, et al.	麻酔科	Temporary Spinal Cord Stimulation for Herpes Zoster With Myelitis: A Case Series	Cureus. 2024 Mar 11;16(3):e55979. (オンライン)	Journal Article
124	Okazaki Haruko, Ishida Yusuke, Wada Miki, et al.	麻酔科	Anesthesia Management Using Remimazolam for Lower Limb Amputation in a Patient With Septic Shock Due to Necrotizing Fasciitis	Cureus. 2024 Feb 16;16(2):e54281. (オンライン)	Case Reports
125	Ohsugi Eriko, Kato Rie, Hosokawa Yuki, et al.	麻酔科	Anesthetic management of cesarean hysterectomy using intra-aortic balloon occlusion in a patient with Fontan circulation and placenta increta: a case report	JA Clin Rep. 2023 Apr 24;9(1):20. (オンライン)	Journal Article
126	Isojima Sakiko, Yajima Nobuyuki, Yanai Ryo, et al.	リウマチ・膠原病内科	Physician approval for pregnancy in patients with systemic lupus erythematosus showing only serological activity: A vignette survey study	Mod Rheumatol. 2024 Mar 28;34(3):509-514.	Journal Article
127	Oguro Nao, Yajima Nobuyuki, Miyawaki Yoshia, et al.	リウマチ・膠原病内科	Effect of Communicative and Critical Health Literacy on Trust in Physicians Among Patients With Systemic Lupus Erythematosus (SLE): The TRUMP2-SLE Project	J Rheumatol. 2023 May;50(5):649-655.	Journal Article
128	Oguro Nao, Yajima Nobuyuki, Ishikawa Yuichi, et al.	リウマチ・膠原病内科	Effect of Attending Rheumatologists' Big 5 Personality Traits on Patient Trust in Patients With Systemic Lupus Erythematosus: The TRUMP2-SLE Project	J Rheumatol. 2024 Feb 1;51(2):168-175.	Journal Article
129	Tada Norihisa, Yajima Nobuyuki, Konishi Noriko, et al.	リウマチ・膠原病内科	Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis With a Pathologically Proven Calcified Lung Nodule	J Rheumatol. 2023 May;50(5):707-708.	Journal Article
130	Yanai Ryo, Lkari Yuzo, Michizu Yuta, et al.	リウマチ・膠原病内科	A rare case of iatrogenic bladder perforation caused by bladder catheterization in a patient with lupus cystitis	Int J Rheum Dis. 2023 Aug;26(8):1622-1623. (オンライン)	Case Reports
131	Yanai Ryo, Yajima Nobuyuki, Oguro Nao, et al.	リウマチ・膠原病内科	Number of Attending Physicians and Accumulated Organ Damage in Patients with Systemic Lupus Erythematosus: LUNA Registry Cross-Sectional Study	Rheumatol Ther. 2023 Apr;10(2):421-431.	Journal Article

132	Murakami Hidetomo, Tokuda Takahiko, El-Agnaf Omar M A, et al.	脳神経内科	IgG index of cerebrospinal fluid can reflect pathophysiology associated with Lewy bodies in Parkinson's disease	J Neurol Sci. 2023 Sep 15;452:120760. (オンライン)	Journal Article
133	Nohara Tetsuhito, Tsuji Mayumi, Oguchi Tatsunori, et al.	脳神経内科	Neuroprotective Potential of Raloxifene via G-Protein-Coupled Estrogen Receptors in A β -Oligomer-Induced Neuronal Injury	Biomedicines. 2023 Jul 28;11(8):2135. (オンライン)	Journal Article
134	Kamata Yukinori, Takashio Osamu, Sato Ryotaro, et al.	精神神経科	Relationship Between Insomnia and Continued Outpatient Treatment in Psychiatric Patients	Neuropsychiatr Dis Treat. 2024 Mar 27;20:697-723. (オンライン)	Journal Article
135	Kawai Keita, Yamada Hiroki, Tomioka Hiroi, et al.	精神神経科	Factors Associated With Physical Restraints in a Psychiatric Unit in Japan: a Retrospective Study	East Asian Arch Psychiatry. 2023 Dec;33(4):120-125.	Journal Article
136	Okino Kazumaro, Suzuki Hirohisa, Tomioka Hiroi, et al.	精神神経科	Efficacy and safety of lemborexant as an alternative drug for patients with insomnia taking gamma-aminobutyric acid-benzodiazepine receptor agonists or suvorexant	Hum Psychopharmacol. 2023 May;38(3):e2868. (オンライン)	Journal Article
137	Nagatsuka Yuta, Nakamura Dan, Ota Marie, et al.	精神神経科	Gaze measurements during viewing human dialogue scenes in adults with ADHD: Preliminary findings	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Mar;44(1):73-79. (オンライン)	Journal Article
138	Sugita Shutaro, Tomioka Hiroi, Mera Kensuke, et al.	精神神経科	Neutrophil-Lymphocyte Ratio in Patients With Acute Schizophrenia	Cureus. 2024 Jan 12;16(1):e52181. (オンライン)	Journal Article
139	Otsuka Koji, Isobe Junya, Asai Yoshiyuki, et al.	食道がんセンター	Butyricimonas is a key gut microbiome component for predicting postoperative recurrence of esophageal cancer	Cancer Immunol Immunother. 2024 Jan 27;73(2):23. (オンライン)	Journal Article
140	Yamashita Takeshi, Otsuka Koji, Goto Satoru, et al.	食道がんセンター	Retrograde transgastric jejunostomy for nutritional management and aspiration prevention in cases with severe malignant esophageal strictures	DEN Open. 2023 Nov 20;4(1):e321. (オンライン)	Case Reports
141	Yamashita Takeshi, Otsuka Koji, Goto Satoru, et al.	食道がんセンター	Thoracoscopic esophageal drainage for tracheal compression due to mucocele after esophagogastric bypass: a case report	Surg Case Rep. 2023 Jun 15;9(1):107. (オンライン)	Journal Article
142	Fujii Takanari, Sugiyama Hisashi, Kanazawa Hideaki, et al.	小児循環器・成人先天性心疾患センター	Transcatheter retrieval of atrial septal defect and patent ductus arteriosus occluder: a guidance for device retrieval based on comprehensive bench tests	Cardiol Young. 2023 Sep;33(9):1597-1605. (オンライン)	Journal Article
143	Kato Mariko, Fujii Takanari, Yamamoto Masayoshi, et al.	小児循環器・成人先天性心疾患センター	Recurrent protein-losing enteropathy complicated by postural right subclavian vein compression and right-sided thoracic duct	J Cardiol Cases. 2023 Oct 25;29(1):47-49. (オンライン)	Case Reports
144	Tashiro Naonori, Hasegawa Takeshi, Nishiwaki Hiroki, et al.	リハビリテーションセンター	Clinical utility of diaphragmatic ultrasonography for mechanical ventilator weaning in adults: A study protocol for systematic review and meta-analysis	Health Sci Rep. 2023 Jul 13;6(7):e1378. (オンライン)	Journal Article
145	Nakamura Shoko, Tanaka E, Iso Y, et al.	薬剤部	Effect of Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitor Administration on Cardiac Rehabilitation in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus with Heart Failure	Pharmazie. 2023 Jul 1;78(6):100-105.	Journal Article
146	Fujimiya Tatsuhiro, Sugita Hideki, Kin Masaoki, et al.	病院薬剤学	Case of Imatinib Susceptibility to CYP3A4-Mediated Drug-Drug Interactions in a Patient With Gastrointestinal Stromal Tumor	Am J Ther. 2024 Jan-Feb 01;31(1):e66-e69. (オンライン)	Journal Article
147	Hinata Miwa, Miyazaki Kikuko, Nakayama Takeo, et al.	病院薬剤学	Encouraging outpatients in an acute hospital for the relief of cancer-related pain: a qualitative study	BMC Palliat Care. 2023 Aug 1;22(1):109. (オンライン)	Journal Article
148	Hoshi Akane, Momo Kenji, Nimura Satomi, et al.	病院薬剤学	Comparison of two high-performance liquid chromatography methods for measuring blood mycophenolic acid concentrations	Showa Univ J Med Sci. 2023.12;35(4):178-183. (オンライン)	Journal Article
149	Ishii Shunichi, Ichimura Takenori, Ichikura Daisuke	病院薬剤学	Prevention of vasculitis and vascular pain by side route administration of vinorelbine: A case report	Clin Case Rep. 2023 May 4;11(5):e7258. (オンライン)	Case Reports
150	Koshizuka Hiromi, Momo Kenji, Watanabe Ayako, et al.	病院薬剤学	Dilemma Facing Patients Aged 75 Years and Older on Fluid Restriction When Drug Package Inserts Advise Use of a Lot of Water: A Cross-Sectional, Descriptive, and Hypothesis-Generating Study Using a Large Claims Database	Drugs Real World Outcomes. 2023 Dec;10(4):521-529.	Journal Article
151	Kurokawa Yuuri, Watanabe Ayako, Kashiwabara Yuka, et al.	病院薬剤学	Identifying causative medications for agranulocytosis: A case report of an older adult with cerebral infarction	Clin Case Rep. 2024 Jan 28;12(2):e8311. (オンライン)	Case Reports
152	Momo Kenji, Maeda Erika, Hattori Haruka, et al.	病院薬剤学	Descriptive Study on a Nationwide Exploratory Questionnaire Survey of Emergency Contraceptive Pills and Their Sexual History and Knowledge in Japan	Biol Pharm Bull. 2023.09;46(9):1296-1303.	Journal Article
153	Muraoka Kenta, Sato M, Yonezawa R, et al.	病院薬剤学	Risk factors for postoperative nausea and vomiting after video-assisted thoracic surgery esophagectomy: a prospective cohort study	Pharmazie. 2024 Feb 29;79(1):17-23.	Journal Article
154	Nagao Michiru, Yonezawa Ryo, Wada Daisuke, et al.	病院薬剤学	A Case of Leg Pain After the Initial Dose of the COVID-19 Vaccine, Followed by Deep Vein Thrombosis and Pulmonary Embolism After the Second Dose	Cureus. 2023 Oct 9;15(10):e46756. (オンライン)	Case Reports

155	Saeki Misa, Watanabe Ayako, Momo Kenji, et al.	病院薬剤学	A super-geriatric patient with gastrostomy underwent life-threatening prothrombin time-international normalized ratio prolongation by warfarin following fasting and antibiotic therapy	Clin Case Rep. 2023 Sep 3;11(9):e7762. (オンライン)	Case Reports
156	Sugita Hideki, Okada Natsumi, Okamoto Matoka, et al.	病院薬剤学	Evaluation of the initial timing of infection control pharmacist-driven audit and monitoring of vancomycin therapy in patients with infectious diseases: A retrospective observational study	PLoS One. 2023 Aug 31;18(8):e0291096. (オンライン)	Journal Article
157	Sunaga Tomiko, Tanaka Michiko, Sone Hiromoto, et al.	病院薬剤学	Myocarditis in Three Japanese Men After the Second mRNA-Based COVID-19 Vaccine Dose	Am J Ther. 2024 Jan-Feb 01;31(1):e93-e96. (オンライン)	Case Reports
158	Suzuki Kosuke, Watanabe Ayako, Kiryu Yoshihiro, et al.	病院薬剤学	Self-controlled Case Series Study for Acute Kidney Injury after Starting Proton Pump Inhibitors or Potassium-Competitive Acid Blocker in Patients with Cancer Using a Large Claims Database	Biol Pharm Bull. 2024 Feb ;47(2):518-526. (オンライン)	Journal Article
159	Watanabe Ayako, Toshima Hirokazu, Saeki Misa, et al.	病院薬剤学	Transient EDTA-dependent pseudothrombocytopenia and ulcerative colitis recurrence during chemotherapy: A case of misleading platelet count results attributable to a laboratory artifact	Clin Case Rep. 2023 Nov 21;11(11):e8153. (オンライン)	Case Reports
160	Yoshikawa Masayuki, Momo Kenji, Komori Ayae, et al.	病院薬剤学	Survey on prescriptions of similar-looking formulations to patients requiring ophthalmological operations	Showa Univ J Med Sci. 2024.03;36(1):42-47. (オンライン)	Journal Article
161	Yasuda Mitsuyoshi, Manabu Syoji, Fuji Tomoki, et al.	放射線技術部	Evaluation of the Performance of Different Types of Radiation Protection Gloves: A Cross-sectional Study	Health Phys. 2023 Dec 1;125(6):427-433.	Journal Article

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容	
① 審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について	
② 審査申請のための事前準備について	
③ 審査申請に必要とされる書類について	
④ 申請書類の作成について（参照すべき指針を含む）	
⑤ 申請から審査・承認までの流れについて	
⑥ 申請から研究実施までのフローチャート	
⑦ 研究計画の経過報告及び終了報告について	
⑧ 重篤な有害事象及び不具合への対応について	
⑨ 研究計画に伴って発生した苦情の窓口について	
⑩ 昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 24 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 ①利益相反の定義 ②利益相反マネジメントの対象者 ③利益相反マネジメントの対象範囲 ④利益相反委員会について ⑤利益相反審議等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 25 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>(1) 最新のトピックス</p> <ul style="list-style-type: none">・倫理指針変更のポイント・個人情報保護の改正・昭和大学の臨床研究電子申請システムについて <p>(2) 研究倫理に関する重要事項</p> <ul style="list-style-type: none">2-1研究に関わる不正行為2-2研究者等の基本的な責務2-3臨床研究の倫理原則2-4インフォームド・コンセント2-5研究計画の原則2-6データの採取・収集について <p>(3) 臨床研究の審査申請に関する説明</p> <ul style="list-style-type: none">3-1臨床研究の区分3-2第三者による倫理審査3-3昭和大学における倫理審査体制/倫理審査受付システムの変更3-4利益相反 (COI) の管理3-5定期報告・終了報告3-6研究試料・情報の保管 <p>(4) 昭和大学の研究 (支援) 体制の説明</p> <ul style="list-style-type: none">4-1【昭和大学統括研究推進センター (SURAC : Showa University Research Administration Center)】の体制について4-2臨床研究アドバイザーについて4-3SURACのデータ管理室業務	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修修了後、各診療科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。
特に内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。臨床研修修了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例全ての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテーションを義務付けており、臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	194 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	准教授	27年	
矢嶋 宜幸	リウマチ・膠原病内科	教授	25年	
山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	35年	
本田 浩一	腎臓内科	教授	32年	
吉田 仁	消化器内科	教授	38年	
服部 憲路	血液内科	教授	21年	
新家 俊郎	循環器内科	教授	31年	
角田 卓也	腫瘍内科	教授	35年	
時松 一成	感染症内科	教授	33年	
横山 和彦	緩和医療科	准教授	34年	
武井 秀史	呼吸器外科	教授	31年	
青木 淳	心臓血管外科	教授	39年	
青木 武士	消化器・一般外科	教授	30年	
五藤 哲	食道外科	准教授	15年	
林 直輝	乳腺外科	教授	24年	
渡井 有	小児外科	教授	33年	
水谷 徹	脳神経外科	教授	39年	
工藤 理史	整形外科	教授	23年	
笠井 史人	リハビリテーション科	教授	33年	
高木 信介	形成外科	准教授	22年	
関沢 明彦	産婦人科	教授	34年	
水野 克己	小児科	教授	36年	
嶋根 俊和	耳鼻咽喉科	教授	28年	
猪又 直子	皮膚科	教授	30年	
深貝 隆志	泌尿器科	教授	38年	
扇谷 芳光	放射線科	教授	29年	

伊藤 芳紀	放射線治療科	教授	29年	
大江 克憲	麻酔科	教授	34年	
小谷 透	集中治療科	教授	37年	
土肥 謙二	救命救急科	教授	37年	
垂水 庸子	救急診療科	准教授	23年	
矢持 淑子	臨床病理診断科	教授	33年	
山口 麻子	病院歯科	講師	29年	
富田 英	小児循環器内科	特任教授	45年	
宮原 義典	小児心臓血管外科	教授	25年	
村上 秀友	脳神経内科	教授	25年	
恩田 秀寿	眼科	教授	24年	
高塩 理	精神神経科	准教授	26年	
相良 博典 (代)	東洋医学科	教授	36年	
岡 秀一郎	歯科麻酔科	准教授	41年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

<全職員>

1. 急病者未然防止システム
2. 活用しよう！ポケットマニュアル
3. ①生体情報モニタのアラーム②除細動器取扱い
4. 画像診断報告書等の確認不足への取り組みについて
5. 除細動器基礎編 生体情報モニター時退床と運用について
6. 診療用放射線の安全利用のために
7. 医療安全管理体制
8. 医療ガス研修会
9. 医薬品安全管理講習会（副作用報告）
10. 活用しよう ポケットマニュアル
11. 抗菌薬の適正使用
12. 高度耐性菌のリスクと感染対策について
13. 内服抗菌薬の適正使用

<臨床検査室>

1. 新入職員研修会
2. 階層別研修会
3. 外部精度管理報告会
4. 部内勉強会

<臨床工学室>

1. 医療機器定期講習会
2. 新人看護師研修会
3. ローカル講習会
4. 医療機器新規導入時研修会

<放射線技術部>

1. 防災講義
2. ルミネスバッジ着用者教育訓練
3. 放射線治療関連機器安全使用のための定期研修
4. ヨウ素125密封小線源治療による前立腺永久挿入治療に係る安全取り扱いの教育訓練
5. 放射線技術部研修会
6. 造影剤取り扱い研修会（ヨード造影剤、ガドリニウム造影剤）
7. MRI実地訓練
8. CT・MRI造影剤副作用訓練

<薬剤部>

1. 新規採用薬研修
2. 薬物療法セミナー
3. 新任薬剤師（臨床研修薬剤師）研修

<看護部>

1. 新人看護師研修会
2. プリセプター研修
3. チームリーダー研修
4. 新人教育責任者研修
5. 卒後2年目研修
6. 看護師既卒入職者・中途採用者・学内異動研修（感染・医療安全含む）
7. ナースヘルパー研修（看護補助者対象）
8. ナースヘルパー研修（看護師対象）
9. クリニカルリーダー別研修（eラーニングを除く）
10. 新任係長研修
11. 師長研修

・研修の期間・実施回数

<全職員>

eラーニング：年1回

<臨床検査室>

1. 半日、年1回
2. ①半日②1日、年2回
3. 1.5時間、年2回
4. 1時間、年2回

<臨床工学室>

1. eラーニング・年2回
2. 1日・年2回
3. 1日・年8回
4. 1日・年68回

<放射線技術部>

1. 1日・1回
2. eラーニング：年1回
3. 1日：2回
4. 1日・eラーニング：1回
5. 1日：年12回
6. 1日：年2回
7. 1日：33回
8. 1日：年2回

<薬剤部>

1. eラーニング・年6回
2. eラーニング・年6回
3. eラーニング・年36回

<看護部>

1. 1日・年14回、半日・年5回、135分・年1回、120分・年2回、90分・年2回、80分・年1回
2. 半日・年1回、1時間・年3回
3. 1時間・年4回
4. 半日・年1回
5. 半日・年1回
6. 1日・年1回
7. 1日・年1回
8. 年1回
9. 年35回
10. 年1回
11. 半日・年1回

・研修の参加人数

<全職員>

参加人数2,000人

<臨床検査室>

1. 10名
2. ①24名②75名
3. ①48名②52名
4. ①41名②57名

<臨床工学室>

1. 4163名
2. 257名
3. 187名
4. 425名

<放射線技術部>

1. 30名
2. 698名（医師271名、看護師343名、医学物理士1名、診療放射線技師60名、臨床工学士23名）
3. 72名（医師12名、看護師6名、医学物理士1名、診療放射線技師53名）
4. 4名
5. 284名（5/2：26名、6/6：30名、6/16：8名、8/1：28名、8/2：13名、9/5：28名、9/22：24名、10/3：17名、12/5：27名、1/9：27名、2/7：28名）
6. 51名（8/15：27名、8/21：24名）
7. 283名（看護師283名）
8. 72名（医師4名、看護師13名、診療放射線技師17名）

<薬剤部>

1. 74名
2. 74名
3. 8名

<看護部>

1. 131名
2. 131名
3. 93名
4. 27名
5. 60名
6. 80名
7. 93名
8. 1067名
9. 921名
10. 15名
11. 31名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

<放射線技術部>

1. 統括放射線技術部階層別ワークショップ（部長・課長、係長、主査）

・研修の期間・実施回数

<放射線技術部>

1. 1日・3回

・研修の参加人数

<放射線技術部>

1. 12名（部長・課長：2名、係長：5名、主査：5名）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 相良 博典	
管理担当者氏名	管理課長 山口 義隆、クオリティマネジメント課長 浅川 悦久 医事入院課長 田邊 聡、医事外来課長 布村 順一	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第二項に掲げる	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	管理課
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
			2018年より診療記録は電子カルテ化されており、ペーパーレス運用となっている。電子カルテの情報は医療情報室に申請手続きをしないと抽出できない運用となっており、個人情報とは原則的に付与されないこととなっている。 また紙カルテ・フィルムは、外部委託倉庫に保管しており、貸出・閲覧時には院外持ち出しを禁止としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十一条の三第三項に掲げる	従業者数を明らかにする帳簿	
		高度の医療の提供の実績	医事入院課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事入院課
		高度の医療の研修の実績	管理課
		閲覧実績	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事外来課、医事入院課
	に掲げる事項 規則第一条の十一第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者数：医事課 調剤数：薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の医療安全対策基本マニュアル内に保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	電子カルテ内・各部署の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者が有する権限に関する状況	管理課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	管理課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 相良博典
閲覧担当者氏名	管理課長 山口 義隆 クオリティマネジメント課長 浅川 悦久 医事入院課長 田邊 聡 医事外来課長 布村 順一
閲覧の求めに応じる場所	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課
閲覧の手続の概要 病院長宛ての依頼文書に基づき、担当部署から依頼者へ手続き等の連絡を行い、閲覧を許可する	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 2. 基本的な考え方 3. 適用範囲 4. 主管部署 5. 医療安全に係る職員の責務 6. 用語の定義 7. 医療安全管理のための体制確保 8. 医療安全に係る管理者の配置 9. インシデント・アクシデントの院内報告制度 10. インシデントの対応 11. 医療事故(アクシデント)の対応 12. インシデント・アクシデントの分析や症例検討の実施およびその対策・実行・評価 13. 医療安全管理に係る研修について 14. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 15. 医療安全情報の非開示 16. 患者からの相談への対応 17. その他医療安全の推進に必要な基本方針 18. 医療安全体制の監査 19. 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集、分析、企画・立案、実行・周知及び評価・改善 2. 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための指針の整備 3. 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のためのマニュアル等の整備 4. 重大な医療事故等が発生した場合には速やかに調査を行い、原因の究明(分析)及びその対応(改善策の実施)を行う。その対応についての職員周知 5. 前項(4)において実施された対応について必要に応じて調査と見直し 6. 医療事故等の院内報告制度の整備 7. 医療事故調査制度に係る対象事例の判断 <p>その他、医療事故に関するすべて(訴訟も含む)の事項を検討し、適切かつ速やかな対策の検討</p> 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年9回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)： <ol style="list-style-type: none"> 1. 急病者未然防止システム 2. 活用しよう！ポケットマニュアル 3. ①生体情報モニタのアラーム②除細動器取扱い 4. 画像診断報告書等の確認不足への取り組みについて 5. 除細動器基礎編 生体情報モニター時退床と運用について 6. 診療用放射線の安全利用のために 7. 医療安全管理体制 8. 医療ガス研修会 9. 医薬品安全管理講習会(副作用報告) <p>受講対象者：2,000人 受講者数：2,000人 受講率100%</p> 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
各部署内でインシデント、アクシデント事例は、各部署の所属長、セーフティーマネジャー及び関係者による分析、改善策が検討されインシデント及び状況報告書で医療安全管理部門に報告される。医療安全管理部門としては、報告されたインシデントレポートは医療安全管理者が全件閲覧し、患者に与えた影響度、発生頻度、組織としての対応や情報共有の必要性を考慮し、カテゴリーに分類して抽出する。事例によっては、医療安全主導で症例検討会(年30件程度)を開催し、また年2回程度M&Mカンファレンスも開催し、インシデント防止を目的とした運用案を立案する。その結果は医療安全管理・対策委員会に報告される。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 病院感染防止の体制確保 (委員会・部門・ICT・ASTの設置、神瀬管理者・感染リンクドクター・感染リンクナースの配置) 3. 病院感染等の院内報告制度 4. 病院感染等の発生時の対応 5. 職員教育(職員研修の実施) 6. その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査 2. 職業感染予防に関連した安全機材や個人防護具の選定、ワザンプログラムの推進、接触者検診の検討 3. 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告 4. ICT環境ラウンドとAST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド実施と改善状況の報告 5. 講習会の開催案内 6. マニュアル、指針、委員会規程の見直しと改訂について検討 7. 厚生労働所や東京都からの法令改定、通知、感染症情報の共有 8. アウトブレイク発生時の要因調査と分析、感染予防策の立案、情報共有 9. 相互ラウンドや地域連携カンファレンスの報告 10 手洗いキャンペーンの実施 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)： <ol style="list-style-type: none"> 1. 活用しよう ポケットマニュアル 2. 抗菌薬の適正使用 3. 高度耐性菌のリスクと感染対策について 4. 内服抗菌薬の適正使用 受講対象者：2,000人 受講者数：2,000人 受講率：100% 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) <p>医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。アウトブレイクと判断した場合は東京都福祉保健局と管轄保健所、私立医科大学病院感染対策協議会事務局に報告と相談を行う。</p> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援やプロセス評価、アウトカム評価とフィードバックを継続している。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 医薬品副作用の報告制度およびその方法について（eラーニング） 受講対象者：2000名（受講率 100%） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 週に一度、病院管理者と医療安全の各担当者による巡視を実施。巡視の時に手順書の内容に沿ったチェックリストを使用し、実施状況を確認。問題があればその場でフィードバックを行っている。問題点は1週間後に再度改善状況を確認している。また病棟担当薬剤師による上記チェックリストに沿った確認を月に1度実施し、その結果を医薬品安全管理責任者が確認している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 〈未承認薬〉：くも膜下フェノールブロック（フェノールグリセリン） 〈適応外使用〉：難治性自己免疫性肝炎に対するミコフェノール酸モフェチルの使用 マイトマイシンの点眼による悪性腫瘍の治療 静脈奇形に対するポリドカノールによる硬化療法 など ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①プラザキサカプセルに重大な副作用（食道潰瘍、食道炎）が追記されたのに伴い、薬袋に服用時の注意コメントを追記。 ②脳領域におけるエフィエント錠の用法、用量について適正使用のお願いを医師に伝達すると共に処方箋上にチェックボックスを設け、監査時に確認することとした。 <div style="text-align: right;">など</div> 	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 120 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器定期講習会 ・ eラーニング①（除細動器基礎編）1回 ・ eラーニング②（生体情報モニターアラーム、除細動器操作方法）1回 ・ 新人看護師研修会 2回 ・ ローカル講習会 8回 ・ 医療機器新規導入時研修会 68回 ・ その他 40回 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ メーカー推奨の定期点検 ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 ・ 人工呼吸器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 閉鎖式保育器 など 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ PMDA及びメーカーからの安全性情報の収集 ・ 医療機器安全NEWSの発行 ・ 医療機器安全管理責任者による定期巡視 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>院内および院外における医療安全管理情報の把握と各医療安全関係管理者への指示・監督を行っている。原則毎週、医療安全管理部門員で集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の副作用、医療機器の不具合等の情報共有およびそれらに関する対策および再発防止策について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑有（8名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> 【各種情報の整理】 薬剤部医薬品情報室にて集約、整理される。 【医薬品安全管理責任者への報告】 薬剤部医薬品情報室担当者より随時報告される。医薬品の使用、採用申請状況は、医薬品安全管理責任者が薬剤部医薬品情報室にて週1回行われるミーティングに出席し共有。また毎日のインシデント事例報告より情報収集。以上の中から対策が必要と判断した場合は対策の立案と実施。 【院内周知】 医薬品安全管理責任者は情報の緊急性・重要性を判断し院内周知を医薬品情報室に依頼し、月2回発行のDI ニュースや各診療科へのメール、電子カルテへの掲載を以って院内周知を行うが、医療安全ニュース（最低月1回）にて医療安全管理部門から発信する場合もある。また、PMDAへの副作用報告や院内採用品の自主回収等の情報は、医薬品安全管理責任者が週1回の医療安全定例会にて報告する。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 病棟担当者からの報告、医薬品情報管理室への問い合わせ等により未承認薬等の使用に関する相談を受けた場合、まず必要性和緊急性を確認し、代替薬の検索・提案を行う。代替薬が無い場合には、委員会への申請の必要性を判断し、必要なら申請を依頼。同時に担当者に依頼し、妥当性・有効性・安全性・経済性の観点から情報の収集・整理を行う。これらの情報を随時、医療安全管理部門と共有し、その情報を基に委員会にて審議を行う。使用開始後は、申請科・病棟担当者と共同して有 	

効性の確認と有害事象をモニタリングする。 ・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：説明・同意書の量的点検が、診療録管理室において実施されおり、規定に定められた事項の遵守状況を確認している。また、診療録管理室運営委員会と医療安全管理・対策委員会を通して、患者への説明内容、説明・同意書の記載内容、同席者の規程について、診療録管理室長を中心に指導を行っている。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 毎月 3 診療科各 10 症例の診療録に対して、診療録の記載内容の監査を医師・看護師・薬剤師によって実施している。また、その結果を診療録管理室運営委員会および病院運営委員会で報告するとともに、当該診療科にフィードバックし、指導することにより改善を促している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
・ 所属職員：専従 (3) 名、専任 (5) 名、兼任 (18) 名 うち医師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (6) 名 うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 (1) 名、兼任 (0) 名 うち看護師：専従 (1) 名、専任 (1) 名、兼任 (2) 名 (注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全のガバナンス体制の推進及び整備に関すること。 (2) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集及び分析、評価に関すること。 (3) 医療事故に関する報告窓口業務に関すること。	

- (4) 医療事故に関する初期情報収集と対応。
- (5) 医療事故等の原因究明及び診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分にされている事の確認を行うとともに必要な指導を行うこと。
- (6) 医療の質の維持・向上並びに医療事故の防止、安全管理のための職員への教育・研修の企画・立案及び実行、周知徹底業務。
- (7) 医療安全に関する連絡調整に関すること。
- (8) 医療の質の維持・向上並びに医療事故に関する書類等の確認及び必要な指導に関すること。
- (9) 医療事故発生時の患者及び家族への説明等の対応状況を確認し必要な指導を行うこと。
- (10) 所管する会議等の資料及び議事録の作成と保存、並びに会議の業務に関すること。
- (11) 訴訟に関する業務(事務)
- (12) 当該事故関係医療従事者を支援すること(精神的サポート体制)
- (13) 院内の全死亡事例の監査
- (14) 内部通報窓口の運用に関すること。
- (15) 高難度新規医療技術の評価及び管理(運用については別に定める)。
- (16) 未承認新規医薬品等の評価及び管理(運用については別に定める)。
- (17) 診療録管理室と連携し、インフォームド・コンセント及び診療記録の質に関する監査に資すること。
- (18) インシデントレベルに関係なく重要な検討が必要な事例については症例検討会を行うこと。
- (19) 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（20件）、及び許可件数（19件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用に関する適否等の評価及び管理

(2) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用の新規・変更申請の窓口業務

(3) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用した全症例の管理

(4) 未承認新規医薬品等評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (20 件)、及び許可件数 (19 件)

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・ 無)

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・ 無)

・ 活動の主な内容 :

(1) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用に関する適否等の評価及び管理

(2) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用の新規・変更申請の窓口業務

(3) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用した全症例の管理

(4) 未承認新規医薬品等評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 763 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 37 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

原因の分析及び再発防止策を立案し、医療安全管理部門に実施の指示をする。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：東京女子医科大学病院・日本大学医学部附属板橋病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：東京女子医科大学病院・日本大学医学部附属板橋病院）・無
- ・技術的助言の実施状況：なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- 1) 電話相談及び窓口相談（総合相談窓口）
 - 2) 投書箱
- 相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長と院内責任者へ報告する。内容によっては各種委員会にて検討し対応策の検討を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- 【感染管理】
1. 活用しよう ポケットマニュアル
 2. 抗菌薬の適正使用
 3. 高度耐性菌のリスクと感染対策について
 4. 内服抗菌薬の適正使用
- 受講対象者：2,000人 受講者数：2,000人 受講率：100%

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

<p>⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>【管理者】2023年3月1日</p> <p>2022年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構</p> <p>【医療安全管理責任者】2023年2月3日</p> <p>2022年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構</p> <p>【医薬品安全管理責任者】①2023年2月3日 ②2023年11月11日</p> <p>① 2022年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構</p> <p>② 令和6年度医薬品安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会</p> <p>【医療機器安全管理責任者】2023年2月3日</p> <p>2022年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構</p> <p>(注) 前年度の実績を記載すること</p>

<p>⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況</p>
<p>・第三者による評価の受審状況</p> <p>平成29年より年2回、外部監査委員による昭和大学病院医療安全外部監査委員会を実施している。</p> <p>令和3年12月日本医療機能評価機構 病院機能評価受審</p> <p>・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況</p> <p>監査結果は昭和大学病院ホームページにて公表している。</p> <p>・評価を踏まえ講じた措置</p> <p>特になし。(外部監査委員・病院機能評価の評価で問題となるような指摘事項なし。)</p> <p>(注) 記載時点の状況を記載すること</p>

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師であること (2) 心身ともに健全にして人格高潔であること (3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること (4) 医療の高度の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること (5) 診療及び臨床教育・研究についての識見を有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小口 勝司	学校法人昭和大学理事長	○	理事長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
小風 暁	昭和大学医学部長		医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
吉田 仁	昭和大学内科学講座 消化器内科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
新家 俊郎	昭和大学内科学講座 循環器内科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
青木 武士	昭和大学外科学講座 消化器一般外科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
三邊 武幸	学校法人昭和大学理事		理事会から推薦された理事1名	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
越石 孝一	一般社団法人日本私立 医科大学協会監事		理事会から推薦された外部有識者2名の内1名	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
成田 光男	荏原七丁目町会会長 品川区荏原第二地域センター 管内区政協力委員		理事会から推薦された外部有識者2名の内1名	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の経営及び運営の方針、経営目標の設定及び管理、予算執行及び収支 病院における教育・研究、事業計画・中長期計画 等（管理会議・病院運営委員会） ・ 審議の概要の従業者への周知状況 診療科長補佐会議において報告、学内情報共有基盤（WEB上）にて全病院職員に通知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙参照			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法 病院ホームページ
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 経営に関すること
 - ア 事業計画、予算の立案及び執行
 - イ 収支の掌握及び改善
 - (2) 診療に関すること
 - ア 診療体制及び診療科の管理
 - イ 患者サービス
 - (3) 医療安全・感染管理に関すること
 - (4) 病院の業務管理に関すること
 - (5) 病院職員の教育・研究に関すること
 - (6) 人事管理に関すること
 - (7) コンプライアンスに関すること
 - (8) その他病院の管理・運営に必要なこと
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
5名の副院長にそれぞれ業務分担を行い、院長（管理者）をサポートする体制を整えている。
（医療安全、感染管理、個人情報、労働安全管理、診療運営、患者支援、中央診療部門、
地域連携、広報、救急、災害対策、外科系、内科系、研修医、臨床倫理・研究倫理、
保険診療、職員教育研修 等）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全各責任者の業務の実施状況について確認する。 理事長又は病院長に是正措置を講ずるよう意見する。 監査結果をホームページで公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法：昭和大学病院ホームページ 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近藤 昌昭	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
坂下 暁子	昭和大学横浜市北部病院病院長		医療に関する学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
附属病院機能評価調査委員会にて定期的に附属病院の評価・指導を実施
- ・専門部署の設置の有無 (・無)
- ・内部規程の整備の有無 (・無)
- ・内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院担当理事協議会とは別に病院長は執行役員として理事会に陪席し、 病院業務に係る体制強化を実施している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙参照			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 0 件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法職員に配布しているポケットマニュアル

昭和大学病院・附属東病院 管理会議構成員

No.	委員長	氏名	職種	役職
1	○	相良 博典	医師	昭和大学病院長
2		村上 雅彦	医師	昭和大学病院・附属東病院 担当理事
3		村上 秀友	医師	昭和大学病院附属東病院長
4		小林 洋一	医師	昭和大学病院副院長
5		大江 克憲	医師	昭和大学病院副院長
6		吉田 仁	医師	昭和大学病院副院長
7		渡井 有	医師	昭和大学病院副院長
8		青木 武士	医師	昭和大学病院副院長
9		吉田 雅子	看護師	看護部長
10		嶋村 弘史	薬剤師	薬剤部長
11		石崎 兼司	事務員	事務部長
12		山口 義隆	事務員	管理課長
13		田邊 聡	事務員	医事入院課長
14		布村 順一	事務員	医事外来課長
15		森本 照美	事務員	東病院管理課長
16		浅川 悦久	事務員	クオリティマネジメント課長
17		村岡 真輔	事務員	管理課管理係長(陪席)
18		小林 達彦	事務員	学校法人昭和大学総務部総務課長(陪席)

昭和大学病院 病院運営委員会出席者リスト

No.	氏名	委員長	職種	所属	職位
1	相良 博典	○	医師	昭和大学病院長	病院長
2	村上 秀友		医師	昭和大学病院附属東病院長	病院長
3	小林 洋一		医師	昭和大学病院副院長	副院長
4	大江 克憲		医師	昭和大学病院副院長	副院長
5	吉田 仁		医師	昭和大学病院副院長	副院長
6	渡井 有		医師	昭和大学病院副院長	副院長
7	田中 明彦		医師	呼吸器・アレルギー内科	診療科長
8	矢嶋 宣幸		医師	リウマチ・膠原病内科	診療科長
9	山岸 昌一		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科	診療科長
10	本田 浩一		医師	腎臓内科	診療科長
11	服部 憲路		医師	血液内科	診療科長
12	新家 俊郎		医師	循環器内科	診療科長
13	角田 卓也		医師	腫瘍内科	診療科長
14	時松 一成		医師	感染症内科	診療科長
15	横山 和彦		医師	緩和医療科	診療科長
16	高塩 理		医師	精神神経科	診療科長
17	武井 秀史		医師	呼吸器外科	診療科長
18	青木 淳		医師	心臓血管外科	センター長
19	青木 武士		医師	消化器・一般外科	診療科長
20	林 直輝		医師	乳腺外科	診療科長
21	水谷 徹		医師	脳神経外科	センター長
22	工藤 理史		医師	整形外科・脊椎外科センター	診療科長
23	笠井 史人		医師	リハビリテーション科	診療科長
24	永井 隆士		医師	リハビリテーション科（東病院）	診療科長
25	高木 信介		医師	形成外科	診療科長
26	関沢 明彦		医師	産婦人科	教授（員外）
27	松本 光司		医師	産婦人科	診療科長
28	恩田 秀寿		医師	眼科	診療科長
29	水野 克己		医師	小児科	診療科長
30	嶋根 俊和		医師	耳鼻咽喉科	診療科長
31	猪又 直子		医師	皮膚科	診療科長
32	深貝 隆志		医師	泌尿器科	診療科長
33	扇谷 芳光		医師	放射線科	診療科長
34	伊藤 芳紀		医師	放射線治療科	診療科長
35	小谷 透		医師	集中治療科	診療科長
36	土肥 謙二		医師	救命救急科（3次）	診療科長
37	垂水 庸子		医師	救急診療科（1・2次）	責任者
38	矢持 淑子		医師	臨床病理診断科	診療科長
39	山口 麻子		医師	病院歯科	診療科長
40	富田 英		医師	小児循環器・成人先天性心疾患センター（小児循環器内科）	センター長
41	宮原 義典		医師	小児循環器・成人先天性心疾患センター（小児心臓血管外科）	センター長
42	山村 冬彦		医師	内視鏡センター	センター長
43	今井 孝成		医師	小児科	センター長
44	五藤 哲		医師	食道がんセンター	センター長
45	加藤 光広		医師	小児科	センター長
46	吉武 理		医師	腎移植センター	センター長
47	安達 太郎		医師	睡眠医療センター	センター長
48	山上 裕機		看護師	膵がん治療センター	センター長
49	中村 清吾		看護師	プレストセンター	センター長
50	谷岡 大輔		薬剤部	診療科長補佐会議	総括診療科長補佐
51	片桐 敦		放射線技師	診療科長補佐会議	副総括診療科長補佐
52	吉田 雅子		管理栄養士	看護部	看護部長
53	中村 綾子		臨床工学技士	看護部	看護部次長
54	嶋村 弘史		臨床検査技師	薬剤部	技師長
55	佐藤 久弥		臨床検査技師	放射線技術部	薬剤部長
56	島居 美幸		医師	栄養科	責任者
57	大石 竜		事務員	臨床工学室	技士長
58	家泉 桂一		事務員	臨床検査室	技師長
59	三邊 武彦		医師	臨床研究支援センター	センター長
60	石崎 兼司		事務員	事務部	課長
61	山口 義隆		事務員	管理課	課長
62	浅川 悦久		事務員	クオリティマネジメント課	課長
63	田邊 聡		事務員	医事入院課	課長
64	布村 順一		事務員	医事外来課	課長
65	森本 照美		事務員	東病院管理課	課長
66	小暮 真也		事務員	施設部	係長
67	西村 美香		事務員	財務部	係長
68	村岡 真輔		事務員	管理課（運営スタッフ）	係長
69	守屋 希和		事務員	管理課（運営スタッフ）	主査
70	大山 圭太		事務員	管理課（運営スタッフ）	主査
71	小野 梨沙		事務員	管理課（運営スタッフ）	係員
72	三橋 聖香		事務員	管理課（運営スタッフ）	係員

病院担当理事協議会 構成員

No.	委員長	氏名	役職	利害関係	備考
1	○	小出 良平	学校法人昭和大学 総括病院担当理事	有	
2		小口 勝司	学校法人昭和大学 理事長	有	
3		村上 雅彦	学校法人昭和大学 病院担当理事(東京都)	有	
4		門倉 光隆	学校法人昭和大学 病院担当理事(神奈川県)	有	
5		上條 由美	学校法人昭和大学 副理事長	有	
6		久光 正	昭和大学 学長	有	
7		馬場 一美	学校法人昭和大学 人事担当理事	有	
8		小川 良雄	学校法人昭和大学 総務担当理事	有	
9		相良 博典	昭和大学病院 病院長	有	執行役員
10		村上 秀友	昭和大学病院附属東病院 病院長	有	執行役員
11		高橋 寛	昭和大学藤が丘病院 病院長	有	執行役員
12		市川 博雄	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 病院長	有	執行役員
13		坂下 暁子	昭和大学横浜市北部病院 病院長	有	執行役員
14		横山 登	昭和大学江東豊洲病院 病院長	有	執行役員
15		真田 建史	昭和大学附属烏山病院 病院長	有	執行役員
16		榎 宏太郎	昭和大学歯科病院 病院長	有	執行役員
17		田口 彰彦	学校法人昭和大学 事務局長	有	執行役員
18		荒川 千春	学校法人昭和大学 統括看護部長	有	必要と認められた者
19		石崎 兼司	学校法人昭和大学 統括病院事務部長	有	必要と認められた者
20		大矢 敦	学校法人昭和大学 人事部長	有	必要と認められた者
21		山口 義隆	昭和大学病院 管理課長	有	陪席
22		田邊 聡	昭和大学病院 医事入院課長	有	陪席
23		佐藤 駿太	昭和大学病院 管理課企画庶務係長	有	陪席
24		石川 智貴	昭和大学病院 管理課企画庶務係主査	有	陪席

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページに記載 (http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html)	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が1人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。	